

**平成28年度大学教育再生戦略推進費
「大学の世界展開力強化事業」計画調書
～ アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化 ～**

[基本情報]

1. 大学名 <small>(○が代表申請大学)</small>	岡山大学				
2. 機関番号	<small>代表申請大学</small>	15301			
3. タイプ	A-①	キャンパス・アジア(CA)事業の推進 ＜CAパイロットプログラムでの実績をベースにさらに高度化した取組を行うもの＞			
4. 事業者 <small>(大学の設置者)</small>	ふりがな もりた きよし (氏名) 森田 潔	(所属・職名) 岡山大学 学長			
5. 申請者 <small>(大学の学長)</small>	ふりがな もりた きよし (氏名) 森田 潔				
6. 事業責任者	ふりがな あらき まさる (氏名) 荒木 勝	理事・副学長(社会貢献・国際担 (所属・職名) 当)			
7. 事業名	【和文】※40文字程度 東アジア高等教育圏を見据えた中核の高度実践人＝アジアンクラット育成プログラム				
	【英文】 Asiancrats: A Prime Professional Human Resource Development Program for the East Asian Higher Education Area				
8. 取組学部・研究科等名 <small>(必要に応じ[]書きで課程区分を記入。複数の部局で合わせて取組を形成する場合は、全ての部局名を記入。大学全体の場合は全学と記入の上[]書きで全ての部局名を記入。)</small>	学問分野	<input type="radio"/> 人社系 <input type="radio"/> 理工系 <input type="radio"/> 農学系 <input type="radio"/> 医歯薬系 <input type="radio"/> 看護・医療系 <input checked="" type="radio"/> 全学 <input type="radio"/> その他			
	実施対象 <small>(学部・大学院)</small>	<input type="radio"/> 学部 <input type="radio"/> 大学院 <input checked="" type="radio"/> 学部及び大学院			
全学[学部:文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、環境理工学部、農学部、マッチングプログラムコース、大学院:教育学研究科、社会文化科学研究科、自然科学研究科、保健学研究科、環境生命科学研究科、医歯薬学総合研究科]					

9. 海外の相手大学			
	国名	大学名	部局名
1	中華人民共和国	吉林大学	
2	大韓民国	成均館大学校	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

10. 連携して事業を行う機関(国内連携大学)					
	大学名	取組学部・研究科等名		大学名	取組学部・研究科等名
1			4		
2			5		
3			6		

(大学名:岡山大学) (タイプA-①)

11. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

・岡山大学

http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/johokoukai_j.html ホーム>大学紹介>法定開示情報 以下,
<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/daigakudata.html> ホーム>大学紹介>大学データ集 以下,

1. 大学の教育研究上の目的に関すること

ホーム>大学紹介>岡山大学の理念・目的・目標

http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/rinen_j.html

2. 教育研究上の基本組織に関すること。

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/profile03.html>, <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/profile05.html>

3. 教員組織, 教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。

ホーム>大学紹介>役員・教員数 各教員が有する学位及び業績に関すること。

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/profile06.html>

4. 入学者に関する受入方針及び入学者の数, 収容定員及び在学する学生の数, 卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/undergraduate.html> ホーム>大学紹介>岡山大学の学士課程教育(または学部教育)における方針

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/daigakudata.html> 大学データ集

5. 授業科目, 授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/index.html> 在学生・保護者の方

http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syllabus_link.html シラバス

6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/index.html> 在学生・保護者の方, 履修・成績等

7. 校地, 校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。

http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/seikatu_d.html 学生生活支援施設

8. 授業料, 入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/index.html> 以下, 授業料・学費支援・保険

9. 大学が行う学生の学修, 進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/index.html> 以下, 学生生活

12. 本事業経費(単位:千円) ※千円未満は切り捨て

年度(平成)	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	合計	
事業規模	24,100	28,720	28,210	28,180	29,740	138,950	
内訳	補助金申請額	20,000	20,000	18,000	16,200	14,580	88,780
	大学負担額	4,100	8,720	10,210	11,980	15,160	50,170

13. 本事業事務総括者部課の連絡先 ※選定結果の通知等の事務連絡先となります。

部課名	所在地	
責任者	ふりがな (氏名)	(所属・職名)
担当者	ふりがな (氏名)	(所属・職名)
	電話番号	緊急連絡先
	e-mail(主)	e-mail(副)

※原則として、当該機関事務局の担当部課とし、責任者は課長相当職、担当者は係長相当職とします。

e-mail(主)については、できる限り係や課などで共有できるグループメールとし、必ず(副)にも別のアドレスを記入してください。

(大学名:岡山大学) (タイプA-①)

事業の目的・概要及び交流プログラムの内容 【1ページ以内】

事業の目的・概要及び相手大学と実施する交流プログラムの内容について、以下の①～④を記入してください。

① 事業の目的・概要等

【事業の目的及び概要】

昨年度終了した「キャンパス・アジア」パイロット事業では、「共通善」をキーワードとした東アジア型グローバル教養教育システムの構築、パートナー校との協働経験の蓄積および連帯・相互信頼の形成、単位互換、成績評価制度の確立、社会文化科学系・医歯薬系ダブル・ディグリー協定の締結と実施、多言語・多文化教育の実施、600人近くの高いモビリティなどを実現してきた。新事業では、これらの基礎に立って、引き続き高い学生のモビリティを実現するとともに、教育の質の補償を強化する観点から、専門教育分野における交流の強化、学位を伴った教育の深化を通じて、次世代中核的専門職業人（アジアクラット）を育成する。

3大学はコンソーシアム間の協定をさらに整備し、互換性の高いアジア高等教育制度を構築する。具体的には、スムーズな相互読み替えが可能な教育・評価・教務制度の実現、学部から大学院までの連続した教育プロセスのさまざまな段階で交換留学、共同教育が可能になる仕組みづくり（導入的SS/SV、共通教養教育、長期留学、専門分野での教育連携、大学院での研究・教育連携、共同学位の授与）を一層推進する。この柱となる制度をさらに魅力的な内容にするため、実践型スキルを高める課題解決型教育の充実、留学や国際インターンシップと連動した実践力の育成、吉林大学の国際連合大学院構想への参加、成均館大学の学部から大学院へ繋がる古典学課程の展開との連携、到達レベルが外部から把握しやすく質保証と直結した客観的で厳密な評価システムの構築、幅広い単位互換を実現する教務制度を、各国の現行制度のすり合わせを行いながら実現する。こうした制度を確立することによって、日中韓の間でのさらに高い学生モビリティを可能にする。

3大学は、プログラムに参加する学生のモビリティが地理的にも大きく拡大し、日中韓コンソーシアム内のみならず ASEAN+3、さらには欧米諸国にまで拡大し、アジア高等教育圏が形成されることを展望している。こうした構想を踏まえながら、本プログラムではとりわけ地域中核人材育成に注力する。具体的には、東アジアの発展に資する専門的知識・能力を備え、「就職力」の高い人材を育成し、3校が東アジアの次世代を担う中核的専門職業人（アジアクラット）の育成拠点および国際人材交流ネットワークの拠点となることを目指す。

【養成する人材像】

本事業では、東アジア、さらにはアジア全域で活躍する次世代中核的専門職業人をアジアクラットと呼び、そうした能力と資質を備えた「就職力」の高い学生を育成する。具体的な人材像は以下の通り：

- ・ **マルチリンガル**：母国語以外に英語プラス地域言語を運用する能力がある人材である。
- ・ **人文社会学系、自然科学系、医歯薬系などの所属に応じた専門的知識・能力**：人文・社会学系においては、人間文化の基礎をなす文化、思想、社会に関する理解を基礎とし、国際、文化、歴史等の比較研究を通じて社会や文化の多様なあり方について多角的に考察し、異なる社会と文化が共生するための方法や制度を探究することができる企業人や研究・教育人材である。自然科学系においては、国際的視野での学際的・先端的研究へのチャレンジの担い手となる高度な問題解決能力と課題探求能力を備え、その成果による次世代パラダイムの構築を担う人材である。医歯薬系においては、ナノバイオ研究、遺伝子解析及び先端医療材料基礎研究、地域医療、特に、岡山大学を中心とした日中韓で共同研究の実績がある、アジア人の癌体質の研究、前立腺癌の解析と遺伝子治療などの分野で世界水準の人材である。
- ・ **グローバルかつリージョナル**：国際的な視野を持つとともに地域固有の文化に精通し、アジア各国の深い伝統的な教養を理解すると共に、常に理解の深化に務める人材である。
- ・ **将来の東アジアを産学官各分野で担うことのできる人材**：東アジア的文化共通性、共生と協力の東アジアを念頭に、アジアの価値観を広く共有できる地域行政、企業・組織の指導者、地域医療のリーダー、技術開発、生産、販売などの各々の分野で3国の協業をリードできる企業中堅幹部候補、また環境、エネルギー、循環型社会の構築など、現代社会が抱える課題解決へ向けてリーダーシップのとれる人材である。

【本事業で計画している交流学生数】 各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位取得の有無は問わない）

平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度		平成 32 年度	
派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
40 人	40 人	55 人	55 人	55 人	55 人	70 人	70 人	70 人	70 人

② 事業の概念図 【1ページ以内】

※国内複数大学による申請の場合は、それぞれの大学の連携内容や役割分担が分かる図を③に作成してください。

図1 日中韓学生教育互換制度モデルの拡張と高度化

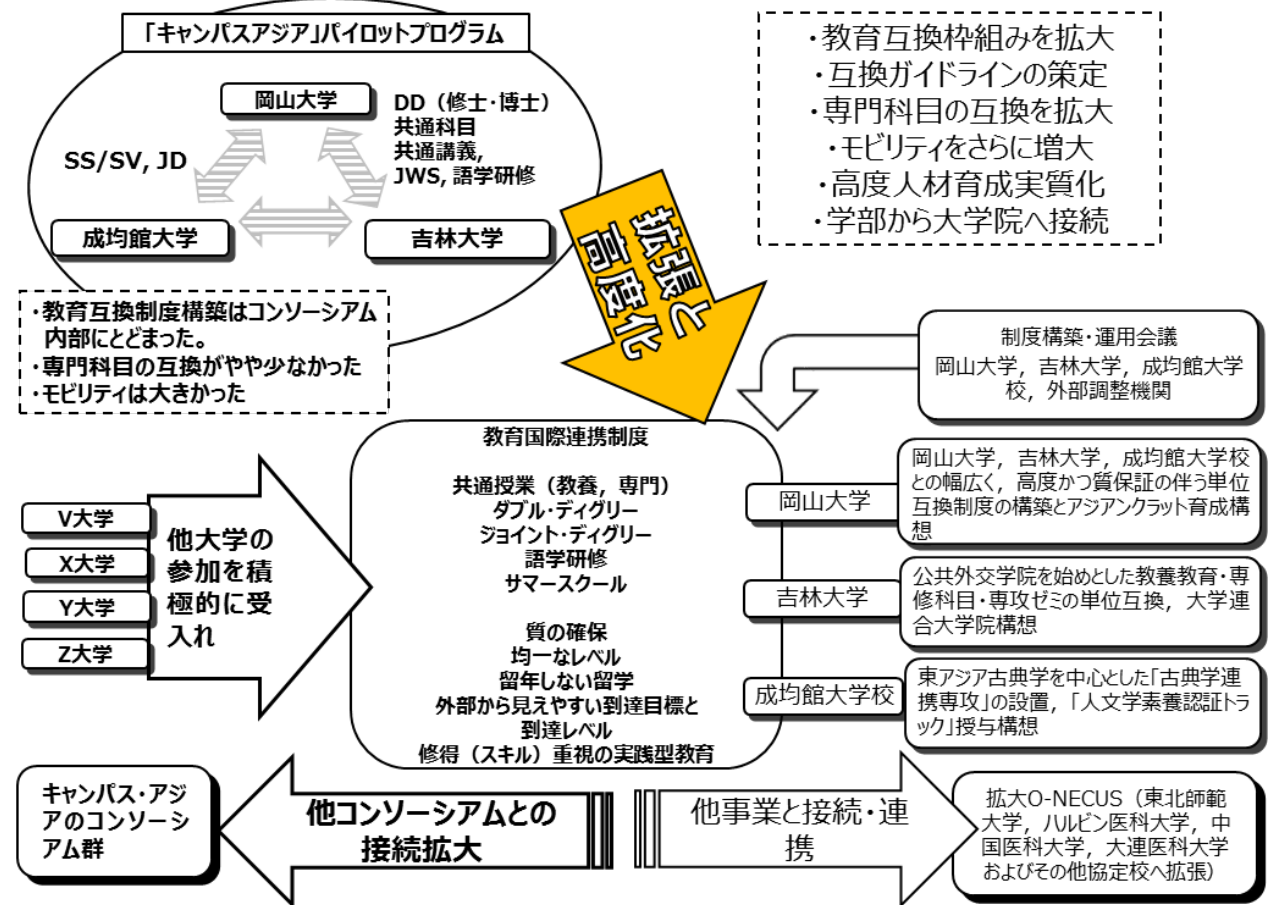


図2 アジアンクラットの育成



③ 国内大学の連携図 【1ページ以内】

※国内の大学が複数連携して実施する取組の場合は、それぞれの大学の役割分担が分かる図を作成してください。

④ 交流プログラムの内容 【2ページ以内】

- 我が国の大学間交流促進の牽引役となるような先導的な事業計画であり、大学の中長期的なビジョンのもとに戦略的な交流プログラムを実施するものとなっているか。
- 単位の相互認定や成績管理等の質の保証を伴った日本人学生の海外留学及び外国人学生の受入の双方向の交流を促進できるような交流プログラムとなっているか。
- 将来グローバルに活躍できる人材像とそれに基づく交流プログラムの設定や提供（外国人学生に対する企業等における体験活動の実施を含む）を行うものとなっているか。
- キャンパス・アジア（CA）の基本的な枠組みを踏まえた事業となっているか。
- タイプA-①においては、キャンパス・アジアパイロットプログラムへの参加実績をベースとして、さらに高度化した取組、あるいは先進的な教育プログラムに取り組むものとなっているか。

【実績・準備状況】

岡山大学、吉林大学、成均館大学校は、「キャンパス・アジア」パイロット事業を通じ、きめ細かな学生支援、多言語語学教育、共通善教育、共通教務制度構築、共通教科書作成、社会文化科学系・医歯薬系ダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリーを実現してきた。3大学は、プログラムの均一性を実現するのではなく、それぞれ互いの強みや特徴を活かしたオリジナルなプログラムを開発してきたが、その成果として5年間の派遣・受入総数500名、文理に渡る様々なプログラムの参加人数延べ1200人という裾野の広い交流を実現した。新事業では、こうした経験と蓄積の定着を確実なものとし、さらに地域で求められる人材の輩出に幅広くつなげていく仕組みを構築することが求められる。

共通善による相互理解、共通教育、多言語セミナー、中韓ワークショップ、ナノバイオ研修など、個々の教育プログラムが成功を収め、高い学生モビリティを達成したことから、次の段階として、(1)より柔軟で世界基準に近く、学部・大学院一貫教育枠組みでの国際教育連携を考える必要があること、(2)そのためには外部調整機関などの調整機関の助力を仰ぐべきであること、(3)従来のプログラムの有機的なつながりを一層堅固なものにすることで、高い就職力を持つアジア型グローバル人材、次世代中核的専門職業人としてのアジアクラット養成を開始すべきこと、がコンソーシアム内で検討されるに至った。

2016年1月22日に岡山で開催された3大学合同会議では、パイロット事業の実績と経験が高く評価され、さらにパートナー校から強い事業への支持と継続の意思が表明された。会議では、キャンパス・アジア事業の継続を確認、一層の連携と協力が満場一致で採択された。現在、平成28年度の学生交流事業が動き出している。

このように、3大学のコンソーシアムは、パイロット事業で構築した枠組みを一層柔軟に拡大し、アジア次世代中核的専門職業人（アジアクラット）の養成を実施する準備を整えている。

【計画内容】

(1) 我が国にとり先導的な事業計画であり、大学にとっては戦略的な交流プログラムとなっているか。

本事業では、教養教育、専門教育、大学院教育の流れに3国間での教育互換・連携を導入し、パイロット事業と同様に高いモビリティを実現する。この事業を通じ、本学のグローバル化をさらに推進すると共に、我が国の大学間交流を牽引するモデル構築を目指す。とりわけ、実践・修得・学生の積極的参加（アクティブ・ラーニング）・インターンシップに力点を置くことで、キャンパス・アジア学生の国際的な「就職力」を高めることが、本事業の先駆的な特徴と考える。本学では、SUG事業におけるグローバル実践人の育成、グローバル人材育成院の設置、グローバル・パートナーズ（旧国際センター）の拡充、グローバル・ディスカバリー・プログラムの実施（平成29年度開始予定）を含め、中長期的なビジョンとして、国際的に活躍できるグローバル人材の育成に力を入れており、本事業は岡山大学の他の事業と有機的に結合させながら実施する。

継続および導入するプログラム・制度：相互理解・協働のための3大学合同会議、緊密な学習指導体制に基づく留学プログラム、英語＋地域言語のマルチリンガルを実現する効率的な語学教育システムの開発、ナノ・バイオコースおよび同コースによるセミナー、修士・博士ダブル・ディグリープログラム（社会文化科学系および医歯薬系）、自然科学系セミナーやワークショップ、日中韓留学ワークショップ、サマースクール、リージョナル・カンファレンス（まちなかキャンパス、フィールドワーク等）、多言語セミナー、薬学シンポジウム、国際シンポジウム（テーマ設定あり）、学生フォーラム、シェアハウス（パイロットプログラムでは借り上げ宿舎を利用していたが、平成28年4月に国際学生シェアハウスが竣工した）、キャンパス・アジア・コミュニティ（同窓会など）、アジアクラット育成システム、国際共同大学院（文系）の設置、同大学院の理系への拡大、将来のクロスアポイントメント制度導入を見据えた教職員相互派遣制度の導入を行う。

医歯薬系では、保健学研究科を新たに加え、先端医療応用コース（Advanced Medical Application Course）として基礎医学系から臨床看護にいたるまで広範囲の専門分野に対応する以下2つのプログラムを行う：

- ① 吉林大学 先端医療応用コース長期（受入のみ修士大学院生1-2名/年）

O-NECUS (Okayama University-North East China Universities Platform) に準じた大学院生を受入れるプログラムとして実施する。現地あるいはインターネット面接試験を行う。コース修了者は「キャンパス・アジア先端医療応用コース修了者外国人留学生特別入試」の受験資格を得ることができる。(保健学研究科内に導入予定) 受入の指導教員の承諾があれば書類審査のみで合格(実質入試免除)できる(私費留学生)。これにより、後期課程(博士)大学院生への外国人留学生を増やすことを目指している。

② 成均館大学校・吉林大学 先端医療応用コース短期(受入学生各5名/年、派遣学生5名/年; いずれも学部・大学院を問わない)

薬学部は、成均館大学校薬学大学と毎年教員・学部生・大学院生を含めた派遣・受入事業を継続しており、博士後期課程のダブル・ディグリー制度に合意している。派遣大学の推薦により選抜した学生に対し、受入大学において、薬学系教員が中心となったプログラムを実施することにより、ダブル・ディグリーへの参加者の増大を図る。コース修了者には「キャンパス・アジア先端医療応用コース短期修了者証」を発行する。同時に、学生の派遣に合わせて、派遣大学の教員が受入大学を訪問し、受入大学において大学院生対象の集中講義を行うことにより、単位互換性国際連携科目の創設を目指す。

(2) 質の保証を伴った双方向の交流を促進できるような交流プログラムとなっているか。

これまで、既存科目をキャンパス・アジア科目体系に組み込むことによって(冠科目)、より多くの科目を履修し単位認定ができる仕組みを構築してきた。他方、共通教科書の編纂、サマースクール(日本語、英語)、日中韓留学ワークショップ、ナノ・バイオコース等を独自プログラムとして共同で実施してきた。いずれも3大学が共同で編纂した共通教科書を用いて初回講義を実施し、厳格な成績管理、ピア・レビューを行っており、質の保証を伴うプログラムである。今後は、学位取得を伴う相互学生交流の枠組み作り、共通教育科目の充実、ラーニング・アグリーメントの導入、ジョイント・ディグリーを見据えたダブル・ディグリー協定の締結拡大などを計画している。

(3) 将来グローバルに活躍できる人材像とそれに基づく交流プログラムの設定や提供。

人文・社会学系においては、人間文化の基礎をなす文化、思想、社会に関する理解を基礎とし、国際、文化、歴史等の比較研究(例: 成均館大学校、アジア古典学課程構想)を通じて多様な社会や文化について多角的に考察し、異なる社会と文化が共生するための方法や制度を探究することができる人材である。インデペンデント・スタディなどの個別プログラムを実施する。

自然科学系においては、国際的視野での学際的・先端的研究へのチャレンジの担い手となる高度な問題解決能力と課題探求能力を備え、その成果による次世代パラダイムの構築を担う人材であり、インデペンデント・スタディなどの個別プログラムを実施する。

医歯薬系においては、パイロットプログラムでナノ・バイオコース長期・短期を展開してきた実績があり、岡山大学を中心とした日中韓で共同研究教育の実績がある。今後、先端医療応用コース長期および短期の2プログラムを展開する。これらのプログラムは、いずれの分野においても、基礎教育の共通授業と共に、課題解決の力を養成する実践型を中心に据えたものとなる。

日本の高等教育機関での教育を受けた優れた学生の我が国における就職をサポートするため、インターンシップなどを含めたキャリア形成、就職力を意識したプログラムを実施する。

(4) キャンパス・アジア(CA)の基本的な枠組みを踏まえた事業となっているか。

本プログラムは日中韓(岡山大学、吉林大学、成均館大学校)のコンソーシアムを基盤としたものであり、コンソーシアム内でのモビリティの大幅な増加、高度教育の共通性の拡大、アジアクラットの育成からアジア全域へ向けた共通教育制度の提唱にかかるイニシアチブをとることを目指すものであり、キャンパス・アジアの枠組みを踏まえた上で、さらに大きく発展を目指すプログラムである。

(5) さらに高度化した取組、あるいは先進的な教育プログラムに取り組むものとなっているか。

今まで3大学は互いの強みや特徴を活かした多くの教育交流を実施し、極めて高いモビリティを実現した。本事業の中心的プログラムである「アジアクラットの育成」は、3大学間の教育連携にとどまらず、これを一層拡大し、東アジア国家間、東アジア地域で有効に作用する国際共通教育制度を設立・運用も展望する。その際、外部調整機関等の支援を仰ぎ、制度構築を行う。

また、教養教育、専門教育、大学院教育の連続性を重視した国際的教育連携体制を築く。本事業は、成均館大学校東アジア古典学課程、人文素養認証トラック構想、マルチリンガル教育などの教養教育、ナノ・バイオコースなどの共同専門教育、吉林大学国際連合大学院構想、ジョイント・ディグリー導入などの大学院教育との連結性を高め、専門能力と実践能力の備わった中核的専門職業人を育成する。

質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 【①、②合わせて2ページ以内】

交流プログラムの質の保証のための取組内容について、実績・準備状況を踏まえて、計画内容を具体的に記入してください。

① 交流プログラムの質の保証について

- 透明性、客観性の高い厳格な成績管理（コースワークを重視したカリキュラムの構成、GPAの導入や教員間の相互チェックなど）、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化に努め、単位の実質化を重視しているか。
- 交流プログラムを実施するに当たり、単位の相互認定や成績管理、学位授与に至るプロセスが明確になっているか。
- 国際公募による外国人教員の招聘や海外大学での教育経験又は国内大学で英語等による教育経験を有する日本人教員の配置、海外連携大学との教員交流、FD等による教員の資質向上など、質の高い教育が提供されるよう交流プログラムの内容に応じた教育体制の充実が図られているか。
- 大学院レベルの交流においては、ダブル・ディグリーもしくはジョイント・ディグリーの実施を目指すものとなっているか。

【実績・準備状況】

パイロット事業では、キャンパス・アジアの独自科目を設けると共に、既存の科目からプログラムの趣旨に沿った科目を「キャンパス・アジア冠科目」として、より多くの科目を履修できるようにし、コースワークの充実に努めてきた。また、GPAの導入、ピア・レビューの実施、キャップ制の実施、英語シラバスおよび日本語シラバス作成の完全実施、ネイティブもしくは海外での研究経験を持つか海外で学位取得をしたアカデミック・アドバイザーによる勉学指導など、質保証に努めてきた。さらに、交流プログラム派遣・受入に際して学生の取得した単位を認定する制度、論文公開審査制度など学位授与の透明性の確保などに留意し、学位の取得プロセスを明確にするなど厳格な成績管理を行ってきた。すでに成均館大学校とは社会文化科学系および医歯薬系でのダブル・ディグリー協定を結んでおり、ジョイント・ディグリーを視野に入れて準備を行っている。また、本学では、教員の採用にあたっては、原則として英語での授業を担当することが可能であることを必須要件として求めており、さらには英語のみでの学位（学士）取得が可能なグローバル・ディスカバリー・プログラムを平成29年度より開始するなど、海外との教育連携・交流が可能な体制を整備してきた。

【計画内容】

将来のクロスアポイントメント制度を見据えた教職員相互派遣制度を設け、教員および職員の流動性を高めるとともに、学生の学習支援、専門教育の質の向上、成績評価の厳密化（3大学間でのすり合わせ）、到達レベルの可視化をすすめ、学生のモビリティを実質の伴うものにする。

学習支援においては、従来のアカデミック・アドバイザー制度に加えて、ラーニング・アグリーメントを導入して科目・分野不適合を未然に防止し、学生の専門の関連科目として確実に単位互換ができる科目や、学生の学習計画により適した科目を事前に検討することで、履修しやすく出口管理を厳密に実施できる工夫を行う。専門教育については、既取得科目やその水準が異なる場合が多いため、最小限の取得科目と到達範囲を定め、専門教育での履修をしやすくする。

また、教職員相互派遣制度を設け、教員のみならず職員の研修を行い、学生の個別指導の実施、異文化理解、コミュニケーション能力向上など学生に対する厚いサポート体制を構築する。

外部から見て履修の効果や到達度が見えやすい評価体系の工夫と構築をめざし、岡山大学で導入済みの、学士課程教育の内容と教育目標達成度を可視化した「学士課程教育構築システム（Q-cum システム）」利用の可能性を探る。

② 相手大学（相手国）のニーズを踏まえた大学間交流の展開

- 相手大学における単位制度（授業時間を含めた学習量や単位の換算方法等）、学生の履修順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違等について留意し、交流プログラムの内容に応じたサポートの実施等により、学生の履修に支障がないよう配慮されているか。
- 短期の交流から学位取得を見据えた長期の交流までの様々な形態の交流を含む多層的な構成で、大学間交流の発展に繋がるような柔軟で発展的な交流プログラムの構成となっているか。
- 各国の人材育成ニーズに合わせた教育の提供に留意したものとなっているか。

【実績・準備状況】

岡山大学は、省エネ・再生エネルギーなど循環型社会の形成、有機物質、臓器移植、癌遺伝子などの研究で成果を上げていると共に東アジア国際協力・教育研究センターを設置している。これらの特徴を基盤に、吉林大学の要望に沿い、日本研究学生交換、医学生訓練などの医歯薬系での交流を実施するとともに、同校が構想する国際連合大学院への参加を検討してきた。また、韓国文化・思想研究を代表し、日韓交流史、文学などのニーズが高い成均館大学校とは岡山大学と医歯薬系、とりわけ社会文化科学系のダブル・ディグリー協定の締結とこの制度による修了生の輩出という成果をあげている。パイロット事業では、「共通善」を中心とした交流を基盤としつつ、吉林大学とは日本関連研究および医歯薬系、成均館大学校とは古典学、日韓交流関連研究などの社会文化

科学系の交流、医歯薬系の交流を行い、3大学のそれぞれの特徴を活かしつつ、共通教育で高い実績を積んできている。

【計画内容】

従来の日本学、日中韓交流史、医学、薬学のみではなく、分野を拡大（特に理系）して交流を進める。文系に関しても、**吉林公共外交学院の大学院事業との連携**を深め、国際連携大学院構想を推進し、アジアクラット養成の最終ステップである大学院での研究・交流を目指す。

アカデミックカレンダーの相違に留意するのはもちろんのことであるが、本計画では、最終的な大学院での連携を目指すために、学部レベルでの教養科目の単位互換の推進、専門科目の互換可能性の検討、**単位互換制度のシステム化**（単位換算式の確立、教務事務の簡略化、事前のラーニング・アグリーメントの導入）を通じて、大学間の差異を吸収して確実に教育連携ができるような施策を実施する。

短期交流では、語学研修、文化研修、ワークショップ、多言語セミナー、技術研修型の「吉林大学先端医療応用コース長期」、「成均館大学・吉林大学 先端医療応用コース短期」、ナノバイオ研修、医師受入研修などを実施し、より長期の留学へ繋がる学生層を開拓する。半期～1年の留学では、学生が自由に選択した単位の認定・互換にとどまらず、**コースワークでの履修を促進**し、またアカデミック・アドバイザーの指導のもとで学生が自ら研究を行う**インデペンデント・スタディ**を設け、体系的で専門的な指導を充実させる。

また、学習・研究を中心にした交流プログラムを実施する一方で、企業訪問、企業でのインターンシップ、大学やその他の企業・機関での**質保証の伴うインターンシップ**を通じて将来のキャリア形成に通じる修得型教育・実践型教育を展開し、本事業参加学生の就職時における優位性を高めるよう努める。

これまでのグローバル教養に加え、専門科目レベルでの交流を太くし、**大学院教育への接続を強化**する。本事業後半では、**プレマスター（大学院進学予備教育）と位置づけられる授業を設定**し、将来の大学院進学学生を準備し、大学院でも高いモビリティを実現できるように交流を拡大してゆく。また、大学院（とりわけ文系）では従来のアカデミックのみに偏ることなく、社会人・専門的職業人としてキャリアを形成するための教育を行う。大学院教育では吉林大学公共外交学院の大学院事業と連携すると共に、大学院主体の本学 0-NECUS（岡山大学および中国東北部7大学連携事業）とも接続、成均館大学校の東アジア古典学コースとの連携も含め、本学の6研究科との接続を想定することで、**学部から大学院まで一貫性を持った国際教育体制**を展開する。

本プログラムの特徴の一つは、**クロスアポイントメント制度導入の前段階として教職員相互派遣制度**による教員（研究者）および職員のモビリティの増大を意図したことである。教員と併せて職員のモビリティも上げることで、教育の国際性、共通性の飛躍的な向上が期待でき、研究の国際性、水準も高まるものと期待できる。

吉林大学は、公共外交学院などの関連学院をはじめとして、学部生の教養科目、専修科目及び専攻ゼミの互換認定を目指すとともに、三大学国際連合大学院を設立する可能性の検討を求めている。また、今までの言語研修、文化体験など短期プログラムの成果を基礎として、学生の自主力を高める実験教室や工場などでの研修プログラムを設けること、3国で注目されたテーマを巡り、関連分野で定期的に学術フォーラム、国際シンポジウム及び学生フォーラムを開催すること、3大学間の「キャンパス・アジアプログラム」に関する職員交流制度を整え、3大学間のプログラムの執行力をアップすることなどを求めている。

成均館大学校は、パイロット事業を通じて基盤を構築した「東アジア古典学」の方法論を、本事業において体系的・専門的「古典学専攻」（学部連繫専攻、大学院協同課程）として制度化すること、さらに、これを基礎とし、「東アジア的文化共同性の模索」はもちろん「共生と協力の東アジア」のための専門人材養成と専門研究者養成を目指したいと望んでいる。具体的には、以下の3点について構想している：(1)パイロット事業の成果の制度化と充実性の引き上げ；2016年2学期に学部に「古典学連携専攻」を開設し、この成果に基づいて、早期に大学院に「古典学協同課程」を設置する。(2)パイロットプログラムの成果の拡散と認証；「古典学連携専攻」科目と連携し、様々な専攻の日中の受入学生にも古典学の成果を身近に感じられる講義を提供し、なおそれらの履修を通じて、人文学素養認証を行う。(3)成果の社会化と研究者養成；大学院では、「古典学専攻」を通じて運営し、日中韓ダブル・ディグリー授与を通じて「東アジア古典学」専門研究者を養成する。

日中韓の複数の教育機関で高等教育を受けた優秀な人材を、本キャンパス・アジア事業を通じて輩出すること、学生のみではなく社会全体としての国際的モビリティの増加に貢献するため、多様なプログラム・企画を実施することは3大学の共通の関心事である。今回の事業においても、両校とは事前に確認・すり合わせをしている。岡山大学、吉林大学、成均館大学校の3大学（3カ国）それぞれの構想は優秀な人材の育成という点でいずれも同じ方向を目指すものであり、本プログラムは両パートナー大学の要望に十分に応え、これまで以上に協働・連携を実現するものである。

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 【①～③合わせて2ページ以内】

交流プログラムの実施に伴う受け入れる外国人学生及び派遣する日本人学生に対する生活や学修及び就職への支援やそのための環境整備について、①～③の内容を実績・準備状況を踏まえて、計画内容を具体的に記入してください。

① 外国人学生の受入のための環境整備

- 外国人学生の在籍管理のための適切な体制が整備されているか。
- 受け入れた外国人学生が学業に専念できるよう、履修指導、教育支援員・TA等の配置、学内外での諸手続き支援、カウンセリング、宿舎、学内各種資料の翻訳、就職支援等のサポート体制の充実が図られているか。
- 単位認定可能な科目、履修体系・順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違等について、学生の履修に支障がないよう十分な情報提供を行う体制がとられているか。
- 国内外でのインターンシップ等による企業体験の機会確保や、外国人学生の国内就職説明会参加、産業界からの講師等の派遣など、産業界との連携が十分に図られているか。

【実績・準備状況】

平成 26 年に国際事業推進部門をグローバル・パートナーズに再編し、在籍管理、受入学生支援、履修指導、教育支援員・TA等の配置、学内外での諸手続き支援、カウンセリング、宿舎、学内各種資料の翻訳などの支援を当該組織が中心に行う体制を整えた。履修可能な科目、履修方法、単位の相互認定の手続きについて、教職員や学生ボランティア等を通じて多様なサポートを提供しているほか、アカデミックカレンダーの相違についても十分に周知し、学生の不利にならないように相手大学の教員と緊密な連絡をとっている。また、本学キャリア開発センター、岡山県産業振興財団等による就職支援も提供されている。

【計画内容】

本プログラムでは、能力開発にさらに重点を置き、インターンシップをより活発にすることで、日本語能力向上、日本での業務遂行に必要な知識や慣行認識等を一層高め、受入留学生の就活環境を整えることを目指している。そのために、「アジアクラット育成プログラム」を通じて、優秀な人材の日本での就職優位性、アジアクラットとしてのアジア諸国での就職優位性を高める実践的教育を推進する。

② 日本人学生の派遣のための環境整備

- 留学中の日本人学生が学業に専念できるとともに、帰国後の学業生活や就職活動等にも支障のないよう、留学中の日本人学生への必要な情報の提供やインターネット等を通じた相談体制の構築等がなされているか。
- 日本人学生に対して、海外への派遣前から帰国後にわたり、履修面・学習面・生活面にわたるサポート（履修指導、交流に関する情報の提供、相談サービスの実施、就職支援等）が推進されているか。
- 単位認定可能な科目、履修体系・順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違等について、学生の履修に支障がないよう十分な情報提供を行う体制がとられているか。
- 留学中の日本人学生の安全管理に関する体制が十分に取られているか。
- 国内外でのインターンシップ等による企業体験の機会確保や、産業界からの講師等の派遣など、産業界との連携が十分に図られているか。

【実績・準備状況】

派遣前から面談・語学履修指導を行い、留学中は勉学に専念できるよう支援を行っている。また、留学中におけるインターネットによる報告・相談体制を構築することで、帰国後の進路相談等、留学経験がより重みを持つようにサポートを行っている。アカデミックカレンダーの違い、留学中の履修指導に関しては相手校の担当教員と緊密な連絡体制を維持し、学生の不利にならないように配慮をしている。安全管理・危機管理に際しては、教員の緊急渡航も含む指針を定めている。

【計画内容】

本プログラムでは、日本人学生の一層の語学能力訓練により、日・英＋1言語の3言語能力の獲得を目指し、中韓およびアジア諸地域での就職力を高める予定である。また、単位互換制度の完成度を高めることにより、留年せず卒業できる留学と就活の円滑化の実現を目指す。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

- 外国人学生及び日本人学生へのサポートが円滑及び適切になされるよう、関係大学間の十分な連絡・情報共有体制が整備されているか。
- 大学間交流の発展に向け、参加学生の同窓会の立ち上げ等、卒業・修了後の継続的サポート体制の構築等が図られているか。
- 緊急時、災害時の対応のための留学中の日本人学生や受け入れた外国人学生をサポートするリスク管理への配慮が十分になされているか。

【実績・準備状況】相手校担当者は英・日を話し、本学担当者は英・中を話す。韓国語も、学内ネイティブ教員と緊密な連携があり何ら問題はない。同窓会の立ち上げもすでに実施済みである。リスク管理に際してはグローバル・パートナーズで教職員をセミナーに派遣し、危機管理対策をしている。岡山大学国際同窓会、キャンパス・アジア・コミュニティの活動も始まっており、継続的サポートの体制も整っている。

【計画内容】本プログラムでは、従来の連絡体制、危機管理体制、継続的サポート体制をこれまで同様に緊密、確実に運用する。

事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 【①～④合わせて2ページ以内】

事業の実施に伴う大学の国際化と情報公開、成果の普及について、①～④の内容を実績・準備状況を踏まえて、計画内容を具体的に記入してください。

① 事業の実施に伴う大学の国際化

- 質の保証を伴った大学間交流の充実・発展のため、実施大学だけでなく他大学の学生も参加できる取組が設けられるなど柔軟で発展的なものとなっているか。
- 大学の国際化に向けた戦略的な目標等において、事業の意義及び方向性を明確に位置づけるとともに、相手大学も含めた組織的・継続的な教育連携を実施する体制が構築されているか。

【実績・準備状況】国内においては国立六大学国際連携機構、海外においてはO-NECUS 参加校や中韓協定校の参加を視野に入れ、各国の協定校を通じて欧米まで繋がる展開、SGU 構想との連携など、質保証を伴う大学間交流ネットワークの形成へ向けて準備している。

【計画内容】本コンソーシアムでは将来の東アジア高等教育圏の形成を予測し、3大学がイニシアチブをとり東アジアからアジアを先導する単位互換制度の運用を目指しており、継続した教育連携を行う。本プログラムは、グローバル・ディスカバリー・プログラムの開設など、学部連携の次のステップである、3大学国際連合大学院構想へと向かう戦略的な流れの中に位置づけられている。

② 事務体制の強化

- 本事業の取組に対応するため、事務局機能を強化するなど事業をサポートする全学的体制の充実（交流にかかる業務が一部の教職員に偏らないよう、窓口となる担当部署を設定し、教職員間の情報共有、意思疎通や各種問い合わせへの対応、事業運営上の関係者間の調整など）が図られているか。
- 招聘した外国人教員や外国人学生とのコミュニケーションを図れる程度の能力を有する事務職員を配置できるよう、事務職員の能力向上を推進しているか。

【実績・準備状況】コンソーシアムに関して、グローバル・パートナーズには中国・韓国ネイティブ専任教職員を配置し、パートナー校担当者と綿密な連携を行っている。部局教職員についても、英語等でのコミュニケーションの可能な職員を積極的に採用・配置し、さらに語学研修などを開催し、職員の能力向上に務めている。また、平成27年度より、部長クラスの位置づけで「調整役」を配置し、事業間の連絡、各種調整が緊密、柔軟、かつ確実に行えるように配慮している。

【計画内容】教職員相互派遣制度の運用、調整機能を持つ職員の配置やネイティブの事務職員の配置を推進し、多くの教職員が外国語でコミュニケーションを取れるように研修等の措置を継続・拡大してゆく。

③ 事業の実施、達成・進捗状況の評価体制

- 事業の実施、達成状況を評価し、改善を図るための評価体制が整備されているか。

【実績・準備状況】3大学会議、ピア・レビューの実施し、国際評価委員会を設置して対応してきている。

【計画内容】本プログラムにおいても、3大学会議で実施状況をチェックし、ピア・レビュー等により教育の質保証を図り、国際評価委員会を設置して事業の実施・達成状況を評価し、適宜改善する。

④ 国内外への情報提供の方法・体制

- 質を保証する観点や学生の適切な判断・選択に資する観点から、取組の実施状況等や交流プログラムの詳細など必要な情報について、外国語による提供も含め、積極的に情報の発信を行うものとなっているか。
- 中央教育審議会大学分科会国際的な大学評価活動に関するワーキンググループ「国際的な大学評価活動の展開状況や我が国の大学に関する情報の海外発信の観点から公表が望まれる項目の例」（平成22年6月）が掲げる、国際的な活動に特に重点を置く大学において公表が望まれる項目について、大学のグローバル化に向けた戦略的な国内外への教育情報の発信を行うものとなっているか。
- 取組を通じて得られた成果について、ホームページ等による公表の他、報告会、発表会等の報告の場を設けて、各大学や学生、産業界等への普及を図るものとなっているか。

【実績・準備状況】パイロット事業の情報は、「国際的な大学評価活動の展開状況や我が国の大学に関する情報の海外発信の観点から公表が望まれる項目の例」で求められている情報はもちろん、法定開示情報についても専用のウェブサイト（「法定開示情報」および「岡山大学データ集」）、公表している。キャンパス・アジア事業についても、ウェブサイト、SNS（Facebook、Twitter、Line、Wechat、kakaotalk、Weibo等）、シンポジウムやセミナーの開催、報告書の作成を通じて取り組み成果の広報に努めている。英語や中国語、韓国語での発信も行っており、十分に準備・実績がある。

【計画内容】本プログラムにおいても、従来通り、「国際的な大学評価活動の展開状況や我が国の大学に関する情報の海外発信の観点から公表が望まれる項目の例」で求められている情報はもちろん、法定開示情報の情報発信をはじめ、ウェブサイト・SNSの利用や、シンポジウムやセミナーの開催、報告書の作成を通じて取り組み成果の広報に務める。今後は動画資料、授業録画などを積極的に推進する。

達成目標 【①、②、③で2ページ以内、④、⑤はそれぞれ1ページ以内、⑥は交流プログラムの内容に応じたページ数】
 本事業を実施することによって達成しようとする目標について、下記の点に留意し、①～⑥に具体的に記入してください。

国民にとって分かりやすい具体的な目標が設定されているか。
 アウトプットだけでなくアウトカムに関する具体的な目標が設定されているか。

① 養成しようとするグローバル人材像について
 本事業において養成しようとするグローバル人材像が明確に設定されているか。

(i) 事業計画全体の達成目標 (事業開始～平成32年度まで)

母国語+英語+地域言語 (日中韓のうちの母国語以外のいずれかの言語) を運用できるマルチリンガル人材。第一言語の場合、英語 TOEFL (iBT) 110-120、日本語能力 N1、漢語水平考試 5 級、韓国語能力試験 6 級レベル。第二言語の場合は英語 TOEFL (iBT) 87-109、日本語能力試験 N3～N2、漢語水平考試 3～4 級、韓国語能力試験 4～5 級レベル。

日中韓のうち、母国以外の国の文化、習慣、慣例、行動様式等を理解できる；日中韓のうち、母国以外の国の古典・現代思想に関する知識・理解がある；日中韓の間での文化交流・受容に関する知識・理解がある；日中韓の法制度の違いや特徴に関する知識・理解がある；大学院への進学を念頭に、専門的な知識の修得を指向し、課題解決型授業、インターンシップ等により積極的に企画立案を行い、リーダーシップを発揮できる；学部レベルの就職で、就職優位性を持てるレベルの語学力と専門力がある；ダブル・ディグリーを取得、もしくは欧米の大学院にも進学可能な語学力および専門力。

(ii) 中間評価までの達成目標 (事業開始～平成29年度まで)

母国語+英語+地域言語 (日中韓のうちの母国語以外のいずれかの言語) を運用できるマルチリンガル人材。第一言語に関して、英語 TOEFL (iBT) 87-109 レベル、日本語能力 N2、漢語水平考試 4 級、韓国語能力試験 5 級レベルにある。

日中韓のうち、母国以外の国の文化、習慣、慣例、行動様式、古典・現代思想、文化交流・受容、法制度の違いや特徴に関する知識・理解がある；リーダーシップを発揮し、新たな課題を発見し、課題解決のための企画立案を行い、実行する能力がある；学部レベルの日中韓での就職活動において、優位性を得られるレベルの語学力と専門力。

②-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする学生数の推移について
 本事業計画において海外に留学する日本人学生数のうち、留学後に一定の外国語力基準をクリアする学生数に関する適切な目標が設定されているか。

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

外国語力基準		達成目標	
		中間評価まで (事業開始～平成29年度まで)	事業計画全体 (事業開始～平成32年度まで)
	【参考】本事業計画において海外に留学する日本人学生数	95 人 (延べ数)	290 人 (延べ数)
1	英語 TOEFL (iBT) 87-109 以上相当	50 人 (延べ数)	160 人 (延べ数)
2	中国語：漢語水平考試 4 級、または韓国語：韓国語能力試験 5 級以上相当	45 人 (延べ数)	130 人 (延べ数)

(ii) 外国語力基準を定めた考え方
 (※ (i) において、複数の外国語力基準を設けている場合は、それぞれについて明示すること)

マルチリンガル人材として、第一言語は十分な能力を、第二言語では基本的なコミュニケーション能力以上を求める。通常は世界共通言語である英語を第一言語とし、抽象的な事柄を話題にするために必要な TOEFL (iBT) 87-109 を学部レベルで、大学院では専門的な交流が可能な TOEFL (iBT) 110-120 相当を求める。第二言語 (地域言語) としての日本語、中国語、韓国語は、生活上のコミュニケーションがとれる日本語能力試験 3 級以上相当、新漢語水平考試 4 級以上相当、韓国語能力試験 4 級以上相当を設定する。

地域言語の修得が優先される一部の分野においては、地域言語の運用能力が抽象的な事柄を話題にするために必要な日本語能力試験 2 級以上相当、漢語水平考試 5 級以上、韓国語能力試験 5 級以上相当+TOEFL (iBT) 57-86 以上相当を学部レベルで求める。大学院にあつては、専門的な内容を扱うのに必要な日本語

能力試験 1 級相当, 漢語水平考試 6 級相当, 韓国語能力試験 6 級相当 + 日常会話からやや高度な事柄を取り込むことができる TOEFL (iBT) 57-109 相当を求める。
(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス (事業開始～平成 32 年度まで) (※ (i) において、複数の外国語力基準を設けている場合は、それぞれについて明示すること)
学部 : 母国語 + 英語 TOEFL (iBT) 87-109 相当 + 日中韓いずれかが日本語能力試験 3 級, 漢語水平考試 4 級, 韓国語能力試験 4 級相当, または, 母国語 + 日中韓いずれかが日本語能力 N2 相当, 漢語水平考試 5 級相当, 韓国語能力試験 5 級以上相当 + 英語 TOEFL (iBT) 57-109 相当 大学院 : 母国語 + 英語 TOEFL (iBT) 110-120 相当 + 日中韓いずれかが日本語能力試験 2 級相当, 漢語水平考試 5 級相当, 韓国語能力試験 5 級相当, または, 母国語 + 日中韓いずれかが日本語能力試験 1 級相当, 漢語水平考試 6 級相当, 韓国語能力試験 6 級相当 + 英語 TOEFL (iBT) 57-109 相当
(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス (事業開始～平成 29 年度まで) (※ (i) において、複数の外国語力基準を設けている場合は、それぞれについて明示すること)
学部 : 母国語 + 英語 TOEFL (iBT) 87-109 相当 + 日中韓いずれかが日本語能力試験 3 級, 漢語水平考試 4 級, 韓国語能力試験 4 級相当, または, 母国語 + 日中韓いずれかが日本語能力 N2 相当, 漢語水平考試 5 級相当, 韓国語能力試験 5 級以上相当 + 英語 TOEFL (iBT) 57-109 相当 大学院 : 母国語 + 英語 TOEFL (iBT) 110-120 相当 + 日中韓いずれかが日本語能力試験 2 級相当, 漢語水平考試 5 級相当, 韓国語能力試験 5 級相当, または, 母国語 + 日中韓いずれかが日本語能力試験 1 級相当, 漢語水平考試 6 級相当, 韓国語能力試験 6 級相当 + 英語 TOEFL (iBT) 57-109 相当
②-2 学生に修得させる具体的能力のうち、「②-1」以外について <input type="radio"/> 本事業に参加する学生に修得させる具体的能力が設定されているか。
(i) 事業計画全体の達成目標 (事業開始～平成 32 年度まで) フィールドワーク、観察、文献渉猟、などから課題を自ら設定し、課題を解決するための手順を論理的に組み立て、データを収集し分析する能力 (統計学など); データ収集のための方法論を組み立て、実施する能力 (調査技法、マーケティングなど); 専門科目学習のための基盤となる科目 (必要に応じて、数学、生物、化学、物理、文学、哲学); チームワーク、ディスカッションなど課題解決のために必要とされる行動において、周囲を牽引する能力 (リーダーシップ); 特定の国、地域に偏らず広い視野で物事を考える力 (発想力、国際性); 大学院へ進学できるレベルの専門能力 (専門性)
(ii) 中間評価までの達成目標 (事業開始～平成 29 年度まで) フィールドワーク、観察、文献渉猟などから課題を自ら設定し、課題を解決するための手順を論理的に組み立て、データを収集し分析する能力 (統計学); チームワーク、ディスカッションなど課題解決のために必要とされる行動において、周囲を牽引する能力 (リーダーシップ); 特定の国、地域に偏らず広い視野で物事を考える力 (発想力、国際性)
③ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について <input type="radio"/> 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組が設定されているか。
(i) 事業計画全体の達成目標 (事業開始～平成 32 年度まで) 評価方法や講義の内容、単位の相互認定に関し「ラーニング・アグリーメント」の締結を制度化; 授業ピア・レビュー制度を確実に運用し、相互に教育の経験を交換; 単位互換制度の確立と運用 (単位互換協定の締結); 厳密な評価制度 (GPA 制度、絶対評価・相対評価のいずれも、成績分布表の作成); 国際コンソーシアム評議会により、質の保証が実質的なものになっているかを定期的にチェック; 短期セミナー、語学研修などではサーティフィケートの発行に基づく単位授与; 日中韓での学生モビリティを向上させる国際教育制度を整備・運用 ダブル・ディグリーの実質的稼働とジョイント・ディグリー制度の運用
(ii) 中間評価までの達成目標 (事業開始～平成 29 年度まで) 評価方法や講義の内容、単位の相互認定に関し「ラーニング・アグリーメント」の締結を制度化; 授業ピア・レビュー制度を確実に運用し、相互に教育の経験を交換; 単位互換制度の確立と運用 (単位互換協定の締結); 厳密な評価制度 (GPA 制度、絶対評価・相対評価のいずれも、成績分布表の作成); 日中韓での学生モビリティを向上させる国際教育制度を整備

④ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移

○ 本事業計画において日本人学生の派遣数に関する適切な目標が設定されているか。

現状（平成27年5月1日現在）※1

48人

(i) 日本人学生数の達成目標

事業計画全体の達成目標（事業開始～平成32年度まで）	290人（延べ数）
中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）	95人（延べ数）

[上記の内訳]

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
合計人数	40人	55人	55人	70人	70人	290人

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

交流協定に基づく派遣半期5人×2×中韓=20人/年、語学研修12人/年、吉林サマースクール8人/年、自然科学系セミナー10人/年、中韓ワークショップ20人/年、合計70人。

■基本数は70人/年である。ただし、平成28年度後期の来日選抜はプログラム採否決定前で、夏に実施を想定している日中韓ワークショップは、平成28年度は年度末の実施となり、規模を縮小して行われる。以上を勘案し、**中間評価までは95名の移動、事業計画全体で290名の移動を見込む。**

上記の他に、大学院レベルでの派遣、特定のテーマによる派遣プログラムの実施、中韓語学研修の企画立案など、交流拡大を目指した施策を実施し、学生モビリティ（派遣）の向上に務める。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における平成27年5月1日現在の人数を記入すること。

⑤ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移

○ 本事業計画において外国人学生の受入数に関する適切な目標が設定されているか。

現状（平成27年5月1日現在）※1

520 人

(i) 外国人学生数の達成目標

事業計画全体の達成目標（事業開始～平成32年度まで）	290 人（延べ数）
中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）	95 人（延べ数）

[上記の内訳]

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
合計人数	40 人	55 人	55 人	70 人	70 人	290 人

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

交流協定に基づく受入半期5人×2×中韓=20人/年、語学研修12人/年、岡山大学ナノ・バイオコース8人/年、自然科学系セミナー10人/年、中韓ワークショップ20人/年、合計70人。

■基本数は70人/年である。ただし、平成28年度後期の留学生選抜はプログラム採否決定前で、渡航費用等が自己負担となるためある程度の人数減が予想される。また、春に実施を想定している語学研修、ナノ・バイオコースは、平成28年度は年度末の実施となり、規模を縮小して行われる。以上を勘案し、**中間評価までは95名の移動、事業計画全体で290名の移動を見込む。**

上記の他に、大学院レベルでの派遣、特定のテーマによる派遣プログラムの実施、中韓語学研修の企画立案など、交流拡大を目指した施策を実施し、学生モビリティ（派遣）の向上に務める。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における平成27年5月1日現在の人数を記入すること。

（大学名：岡山大学）（タイプ：A-①）

⑥ 交流する学生数について

○ 外国人及び日本人学生数の推移については、外国人学生の受入のみに偏らず、相当数の日本人学生の海外派遣を伴う、双方向の交流活動が発展するような達成目標となっているか。

1. 交流する相手大学名

(中国側大学) 吉林大学	(韓国側大学) 成均館大学校
--------------	----------------

2. 交流する学生数について<概要>

(単位:人)

①:本事業計画における交流学生数(計画)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
合計人数	40	40	55	55	55	55	70	70	70	70	290	290

①-1:【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国別 内訳】(計画)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	25	20	25	20	25	20	25	20	25	20	125	100
交流相手国:中国	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	50	50
交流相手国:韓国	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	50	50
交流相手国:中国及び韓国	5	0	5	0	5	0	5	0	5	0	25	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数	15	20	30	35	30	35	45	50	45	50	165	190

①-2:【交流形態別 内訳】(計画)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流学生数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	100	100
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	15	11	20	20	20	20	20	20	20	20	95	91
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流学生数	3	5	10	10	10	10	25	25	25	25	73	75
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	2	4	5	5	5	5	5	5	5	5	22	24

②: 宿舎の提供について(計画)

宿舎(大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等)を提供予定の学生数	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	40	40	55	55	55	55	70	70	70	70	290	290

【参考】キャンパス・アジアパイロットプログラム(平成23年度～27年度)実績※

(中国側大学) 吉林大学	(韓国側大学) 成均館大学校
--------------	----------------

※大学の世界展開力強化事業(平成23年度採択)のうち日中韓三カ国の交流の実績

キャンパス・アジアパイロットプログラムにおける交流学生数(実績)

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
合計人数	19	12	81	33	79	86	96	50	47	59	322	240

【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国別 内訳】(実績)

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	9	0	11	11	10	19	10	19	7	18	47	67
交流相手国:中国	4	0	5	6	5	11	5	12	2	12	21	41
交流相手国:韓国	5	0	6	5	5	8	5	7	5	6	26	26
交流相手国:中国及び韓国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学からの奨学金による交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1
その他の奨学金による交流学生数	0	12	12	12	22	22	22	30	25	41	81	117
上記以外(自己負担等)の交流学生数	10	0	58	10	47	45	64	0	14	0	193	55

【交流形態別 内訳】(実績)

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流学生数	0	12	22	12	22	22	66	22	32	32	142	100
単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	9	0	11	11	10	17	10	16	7	16	47	60
上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流学生数	10	0	48	10	47	45	20	9	8	9	133	73
上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	2	0	3	0	2	0	7

宿舎の提供について(実績)

宿舎(大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等)を提供されている学生数	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	14	12	68	33	79	86	96	50	47	59	304	240

3. 交流する学生数について<派遣・受入別 交流プログラムの詳細>

①:日本人学生の派遣（日本⇒中国、韓国）

年度	交流期間	派遣元大学名 (日)	派遣先大学名 (中、韓)	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流 学生数
H28	4月1日～3月31日	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	アジアクラット育成	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	15
	11月中旬～11月下旬	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	日中韓ワークショップ	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	20
	8月中旬～8月下旬	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	3
	4月1日～3月31日	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	2
H29	4月1日～3月31日	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	アジアクラット育成	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	20
	9月中旬～9月下旬	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	日中韓ワークショップ	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	20
	8月中旬～8月下旬	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	10
	4月1日～3月31日	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	5
H30	4月1日～3月31日	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	アジアクラット育成	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	20
	9月中旬～9月下旬	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	日中韓ワークショップ	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	20
	8月中旬～8月下旬	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	10
	4月1日～3月31日	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	5
H31	4月1日～3月31日	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	アジアクラット育成	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	20
	9月中旬～9月下旬	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	日中韓ワークショップ	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	20
	8月中旬～8月下旬	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	25
	4月1日～3月31日	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	5
H32	4月1日～3月1日	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	アジアクラット育成	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	20
	9月中旬～9月下旬	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	日中韓ワークショップ	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	20
	8月中旬～8月下旬	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	25
	4月1日～3月31日	岡山大学	吉林大学, 成均館大校	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	5

②:外国人学生の受入（中国、韓国⇒日本）

年度	交流期間	派遣元大学名 (中、韓)	受入先大学名 (日)	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流 学生数
H28	4月1日～3月31日	吉林大学, 成均館大校	岡山大学	アジアクラット育成	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	11
	2月上旬～2月下旬	吉林大学, 成均館大校	岡山大学	語学・文化等文系研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	10
	2月上旬～2月下旬	吉林大学, 成均館大校	岡山大学	短期ナノバイオ等理系研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	10
	8月中旬～8月下旬	吉林大学, 成均館大校	岡山大学	自然科学系等理系研修	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	5
	4月1日～3月31日	吉林大学, 成均館大校	岡山大学	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	4
H29	4月1日～3月31日	吉林大学, 成均館大校	岡山大学	アジアクラット育成	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	20
	2月上旬～2月下旬	吉林大学, 成均館大校	岡山大学	語学・文化等文系研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	10
	2月上旬～2月下旬	吉林大学, 成均館大校	岡山大学	短期ナノバイオ等理系研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	10
	8月中旬～8月下旬	吉林大学, 成均館大校	岡山大学	自然科学系等理系研修	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	10
	4月1日～3月31日	吉林大学, 成均館大校	岡山大学	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	5
H30	4月1日～3月31日	吉林大学, 成均館大校	岡山大学	アジアクラット育成	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	20
	2月上旬～2月下旬	吉林大学, 成均館大校	岡山大学	語学・文化等文系研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	10
	2月上旬～2月下旬	吉林大学, 成均館大校	岡山大学	短期ナノバイオ等理系研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	10

	8月中旬～8月下旬	吉林大学, 成均館大学校	岡山大学	自然科学系等理系研修	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	10
	4月1日～3月31日	吉林大学, 成均館大学校	岡山大学	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	5
H31	4月1日～3月31日	吉林大学, 成均館大学校	岡山大学	アジアクラット育成	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	20
	2月上旬～2月下旬	吉林大学, 成均館大学校	岡山大学	語学・文化等文系研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	10
	2月上旬～2月下旬	吉林大学, 成均館大学校	岡山大学	短期ナノバイオ等理系研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	10
	8月中旬～8月下旬	吉林大学, 成均館大学校	岡山大学	自然科学系等理系研修	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	10
	2月上旬～2月下旬	吉林大学, 成均館大学校	岡山大学	リージョナルカンファレンス	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	15
	4月1日～3月31日	吉林大学, 成均館大学校	岡山大学	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	5
H32	4月1日～3月31日	吉林大学, 成均館大学校	岡山大学	アジアクラット育成	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	20
	2月上旬～2月下旬	吉林大学, 成均館大学校	岡山大学	語学・文化等文系研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	10
	2月上旬～2月下旬	吉林大学, 成均館大学校	岡山大学	短期ナノバイオ等理系研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	10
	8月中旬～8月下旬	吉林大学, 成均館大学校	岡山大学	自然科学系等理系研修	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	10
	2月上旬～2月下旬	吉林大学, 成均館大学校	岡山大学	リージョナルカンファレンス	上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	15
	4月1日～3月31日	吉林大学, 成均館大学校	岡山大学	語学・文化等文系研修	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	5

(大学名: 岡山大学) (タイプ: A-I)

大学の世界展開に向けた取組の実績 【国内の大学1校につき、①は2ページ以内、②は1事業ごとに1ページ以内】

大学名	岡山大学
-----	------

① 取組の実績

- 英語による授業の実施や留学生との交流、海外の大学と連携して学位取得を目指す交流プログラムの開発等による国際的な教育環境の構築などに取り組んできた実績を有しているか。
- 海外の有力大学が参加する国際的なネットワークへの参加や、単なる枠組みの形成にとどまらない、実質的な交流が継続して行われてきた実績を有しているか。
- 国際化に対応するため、外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用や、FD等による教員の資質向上に取り組んできた実績を有しているか。特に、そのために国際公募、年俸制、テニュアトラック制等を実施・導入しているか。
- 英語のできる国際担当職員の配置、語学等に関する職員の研修プログラムなど、事務体制の国際化に取り組んできた実績を有しているか。
- 厳格な成績管理、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化など、単位の実質化に取り組んできた実績を有しているか。

※大学におけるこれまでの世界展開に向けた取組の実績について、事業との関連性を踏まえつつ上記の点にも言及して具体的に分かりやすく記入するとともに、記入した内容の裏付けとなる資料を様式11④に貼付してください。

○多言語による授業の実施など国際的な教育環境の構築

岡山大学短期交換留学プログラム（EPOK）や、交流協定により受け入れた留学生を主な対象として、英語による授業科目群「人の移動からみるアジア太平洋」「太平洋諸島地域の社会と文化」など、世界と日本をつなぐ内容の授業を中心に教養教育科目として開講し、留学生、留学を希望する学生及び一定の英語力（TOEFL iBT 57以上）を持つ日本人学生が、ともに履修している。また、平成25年度に設置したグローバル人材育成特別コースにおいては、生命や倫理、現代社会における諸課題についての考察及び発表を行う講義や、留学後の学生の英語能力維持向上のために、各学部の専門科目を英語で開講している。また、大学院では、博士前期課程に設置の岡山大学-フェ大学院特別コースにおいて、全授業科目を英語で実施している。平成25年にはL-caféが多言語による留学生との交流の場として設置され、英語のみならず、ドイツ語、フランス語、韓国語、中国語、にほんごカフェなどで年間延べ約20,000人が利用している。

平成26年度には国際化に向けた取組を主体的に企画・実施等する組織「グローバル・パートナーズ」を設置した。同年には英文シラバスの作成、ナンバリングを行い、留学生から本学の教育内容が見えやすいよう工夫も行ったほか、協定校において日本語・日本研究を専攻する学生を対象に、日本語を教授したり、教養教育科目を提供し、日本文化に関する理解を深めてもらうことを目的にして短期留学受入プログラム（通称3+1）を設置している。平成28年度に外国人留学生及び日本人学生が日常生活レベルで交流が深められる学生寄宿舎（国際学生シェアハウス）を整備した。平成28年度からは、英語による授業の履修を促すため、全授業科目のシラバスに、授業で使用する言語を明記した。平成29年度よりグローバル・ディスカバリー・プログラムを開始する。同プログラムは世界各地から集まった留学生、帰国生、日本国内の高校出身者など、多様な背景と経験を持つ学生の協働と学び合いを基礎とする4年間の学士課程で、英語及び日本語による教育を行う。英語のみでの学位取得も可能である。さらに、Okayama University-North East China Universities platform、Graduate Student Exchange Program（O-NECUS）では、双方向学位（ダブルディグリー）制度、短期留学（単位互換）制度を実施している。対象大学は、中国東北部5大学で、大連医科大学、東北師範大学、中国医科大学、ハルビン医科大学、吉林大学である。以上のように国際的な教育環境構築を絶えることなく行っている。

○国際的なネットワークへの参加

平成19年にユネスコチェアの認定を受けている。平成25年度より、欧州エラスムス・ムンドゥス EASED プログラムに参加している。国立六大学（千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学及び熊本大学）は平成25年3月に六大学の特色を生かした連携を通じて教育・学術研究を機能強化し、グローバル人材育成推進や学術研究の高度化を図るため、包括的連携協定を提携した。同年4月にはASEAN諸国の大学とライフサイエンス分野における学生交流の活発化や国立六大学のさらなる国際化を目指して、タイ王国のマヒドン大学でASEAN大学連合（AUN）とパートナーシップ協定に調印、平成27年度よりAUN（Asian University Network）へ授業の供給を開始した。平成27年度にはErasmus Plusプログラム協定を3校と結んでいる。平成28年3月には、オランダの政府系独立機関EP-Nufficとの包括協定を締結した。

○外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用や、FD等による教員の資質向上、国際公募、年俸制、テニュアトラック制等。

平成 26 年から、優秀な教員を確保し、若手・外国人教員ポストを創出することで組織の活性化を図り、研究大学として更なる発展を目指すため、流動性の高い大学病院の教員を中心に全学的に年俸制を導入し、平成 27 年度までの改革加速期間中に常勤教員（承継教員）25%以上の導入を目標としている。平成 28 年 4 月 1 日現在 27.5%に導入し、目標を達成するとともに、併せて、外人教員を 4 名、年俸制により採用した。第 4 期科学技術基本計画（平成 23 年 8 月閣議決定）に掲げられた、テニュアトラック制教員の割合を全学の自然科学系の若手新規採用教員総数の 3 割相当とすることを目指すという目標を更に拡大し、採用においては例外を除き、全部局全教員への適用を目指したテニュアトラック制の導入拡大を図っている。公募は原則的に国際公募であり、新規採用者は年俸制での雇用である。全学センターではテニュアトラック制度を全面的に導入・実施している。また外国人教員を積極的に採用すると共に、教員には海外での研究活動を奨励し、外国籍の研究者の受入も行っている（英文 HP Facts and figures）。英語の授業を一層増加させるため、平成 27 年度には、英語による授業実施のための研修（国立大学改革強化推進補助金）及び英語による専門科目の教授法に関するワークショップ（スーパーグローバル大学創成支援事業）を実施し、累計 186 名の教員が参加した。

○英語のできる国際担当職員の配置、語学等に関する職員の研修プログラムなど、事務体制の国際化

国際担当職員の配置、語学等に関する研修プログラムに関しては、毎年 9 月 1 日現在で「職員個人調書」を提出してもらい、人事情報を取得している。その調書の中に「語学」について 5 段階の自己評価を行う項目と「TOEIC・英検等のスコア・資格」を記載する項目を設けている。また、年数回行われている TOEIC の試験結果を取り寄せており、それらにより、職員の語学能力を把握した上で、語学力（英語）が必要な部署（グローバル・パートナーズやグローバル・ディスカバリー・プログラム設置準備事務室、留学生対応を含む教務担当など）に配置を行っている。さらに、本学では継続的な教職員語学研修を行っている。平成 23 年度～26 年度を集計すると、教職員対象の英会話研修を実施し、180 名が参加した。職員各自の目標設定、到達度測定及び継続的な学習の動機付けとすることを目的する「TOEIC IP テスト」については 409 名が受験している。平成 25 年度より 6 名の職員を選抜し海外派遣研修を実施している。平成 27 年度には、職員対象の英会話研修についてオンライン研修を導入し、11 名が受講した。職員対象の英語スキルアップ研修については、30 名が受講した。TOEIC IP テストについては、103 名が受験した。海外研修には職員 2 名を派遣。平成 28 年度文部科学省国際業務研修生（LEAP）として事務職員 1 名の派遣を決定した。以上のように、英語以外にも中国語の研修を行うなど、国際業務に対応できる人的資源の育成につとめており、トライアングル交流事業実施体制は整っている。

○厳格な成績管理、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学習課程と出口管理の厳格化など、単位の実質化

平成 26 年に「高等教育開発推進機構」を設立し、教育課程・教育方法の検証及びその全学的導入を支援し、大学のグローバル化及びアウトカムに重点を置く教育を推進する計画を定めている。教育の質の向上に向けた「60 分授業」及び「4 学期制」の導入決定、IB（国際バカロレア）入試の全学部全学科 1 コースでの募集実施、「岡山大学教養教育改革の基本方針」を策定し、同方針に基づき「教養教育科目設定における方針」を取りまとめるなど、教育の実質化へ取り組んできた。

成績管理について、各学部・研究科ごとに成績評価基準を定めた上で、授業科目ごとの成績評価方法をシラバスに明示するとともに、成績評価異議申立制度を運用している。履修可能な上限単位数については、各学部の教育内容に沿って設定している。出口管理の厳格化に向けて、岡山大学学士課程教育構築システム（Q-cum システム）を活用し、単なる単位修得に留まらないディプロマポリシーにかなう学生を育成するための教育を行っている。

平成 28 年度から 60 分授業・4 学期制を開始することで、学生の集中力を持続させるとともに、授業時間内での学習時間を増加させた。また、60 分授業・4 学期制の導入に伴い、教員が授業の実施方法を見直すことで、より学習効果の高い授業を行うことや、一層の知識の定着を図っている。これらの制度の変更に加え、シラバスに授業時間外学修のための方法や文献を明示することにより、従来型の受け身の学修から、能動的な学修への転換を図ることで、単位の実質化を行っている。

大学名	岡山大学
② 取組の評価	
○ 文部科学省の大学教育再生戦略推進費による経費支援を受けて実施し、終了した事業がある場合、事業目的が実現された旨の評価を得ているか。 ※事後評価結果を貼付してください。	
【対象プログラム】 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業（平成 24 年度採択） →該当なし。	

交流プログラムを実施する相手大学について 【ページ数については、相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

交流プログラムを実施する相手大学に関して、

①については、交流プログラムの内容や交流期間など、相手大学との交流実績が分かるように記入してください。

(本事業における交流プログラムとの関連性や現在の交流の有無は問いません。)

なお、交流実績が無い場合は、交流実績が無くとも本事業が実施できると判断した理由及び背景等を説明してください。

②については、相手大学との交流プログラム実施に向けた準備状況について具体的に分かりやすく記入してください。

また、交流を実施するまでの具体的なスケジュールについても記入してください。

相手大学名
(国名)

吉林大学 (中華人民共和国)

① 交流実績 (交流の背景)

○ 交流プログラムを実施する相手大学との交流実績を有しているか。

吉林大学は、平成 23 年度に本学のキャンパス・アジアパイロットプログラムが採択になった際のパートナー校であり、以降、サマースクール、オータムスクール、若手医師育成プログラム、ダブル・ディグリープログラム、シンポジウムやセミナーの共同開催、夏から秋にかけて本学教員が学生を率いてワークショップを行う日中韓ワークショップの実施など、緊密で継続した関係を築いている。また、3 大学代表者会議 (年 1 回程度)、キャンパス・アジア事務局会議 (年 2 回程度) 等を実施し、緊密に将来構想のすり合わせ、実施プログラムの調整を行っている。

また、平成 18 年度に、吉林大学を含む中国東北部 7 大学と協定を締結した。このコンソーシアムでは、優れた人材の育成を共同で行い、大学院学位の国際的通用性、質の保証、国際水準の教育の提供を図るプログラムを構築してきた。そして、共同プログラムとして O-NECUS (Okayama University-Northeast China Universities Platform) プログラムを発足させた。翌平成 19 年 8 月に東北地区において岡山大学中国長春事務所と岡山大学中国瀋陽事務所を設置し、吉林大学との交流はより円滑に行われるようになった。平成 20 年 10 月からスプリング/オータム入試 (海外特別選抜入試含む) を行い、第 1 期の受け入れを決定し、現在に至るまで 90 名を超える留学生がこのプログラムにより岡山大学で学んでいる。ダブル・ディグリー制度、および短期留学 (単位互換) 制度では、平成 20~24 年度までに 109 名を受け入れている。とりわけ吉林大学とは、ダブル・ディグリー制度の枠内で共通科目 (O-NECUS ワークショップ) を設定し、相互教員派遣、特別指導を共同で実施している。また、これまでに 3 度の O-NECUS シンポジウムを開催し、今後の研究・教育協力について協議した。

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた相手大学との準備 (大学ごとの役割・実施体制の明確化など) が十分なされているか。

すでに記述したように、中国 吉林大学とは長期にわたる交流があり、キャンパス・アジアパイロットプログラムでの相手校である。

吉林大学とはキャンパス・アジアプログラム継続・発展の方向ですでに一致しており、パイロットプログラムは平成 28 年 3 月末で終了したが、平成 28 年度の学生交流はすでに継続して派遣・受入が行われている。現在では日本文化・日本研究および医学系の交流にとどまっている交流を一層拡大する方向を目指すことで一致している (交流対象領域の拡大)。教育の分野に関しては、共通善研究で築いた信頼関係と協働関係を元に、学生の交流や教職員の交流を一層増加させる施策、具体的には、授業レベルの検討、共通授業のレベルや分野の拡大 (基礎教育の共有、専門科目での交流の拡大)、客観的な成績評価基準の共有と質保証に基づく単位互換手続きの簡素化 (単位の実質化と教務の効率化) へ向けた綿密な調整を行う予定である。

アジアクラットの育成については、履修科目の英語化を推進する一方で、地域言語も重視する マルチリンガル教育 を進め、法学系 では各国事情に通曉し東アジア全般を視野にいたれた外交政策、公共政策、産業政策展開のための実務法務の実践的教育を行うための各国法制カリキュラム、経済系、特にマーケティング、マネージメント、統計、を含む実務型教育、社会科学系 では、共通善研究の発展形としての伝統的思想の再評価研究、相互の文化的影響研究を中心とした社会学的調査技法等の実践型教育、医歯薬系 では従来のナノ・バイオコースおよび医師研修の拡大を通じて、専門教育からブレマスタレベルの教育を岡山大学および成均館大と共に関西コンソーシアム全体として展開する。医歯薬系 も参加し、重要な大学院交流の一つである O-NECUS プログラム (本学では社会文化科学研究科、教育学研究科、医歯薬学総合研究科) との連携を積極的に行い、将来の国際連合大学院の設立を目指す。

交流プログラムを実施する相手大学について 【ページ数については、相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

交流プログラムを実施する相手大学に関して、

①については、交流プログラムの内容や交流期間など、相手大学との交流実績が分かるように記入してください。

(本事業における交流プログラムとの関連性や現在の交流の有無は問いません。)

なお、交流実績が無い場合は、交流実績が無くとも本事業が実施できると判断した理由及び背景等を説明してください。

②については、相手大学との交流プログラム実施に向けた準備状況について具体的に分かりやすく記入してください。

また、交流を実施するまでの具体的なスケジュールについても記入してください。

相手大学名
(国名)

成均館大学校 (大韓民国)

① 交流実績 (交流の背景)

○ 交流プログラムを実施する相手大学との交流実績を有しているか。

平成 15 年度に協定を締結した。その後 2 回の協定更新を経て現在に至っている。

岡山大学薬学部 (大学院薬科学専攻) は、先端薬学教育開発センター (黒崎勇二センター長) を中心として、岡山大学が目指すスーパーグローバル大学としての教育形態を大学院レベルで実施するものとして、平成 27 年度から社会文化科学研究科および医歯薬研究科で修士や博士学位のダブル・ディグリーの取得を目指すプログラム (Double Degree Program) を開設し、学生交流、教員の交流など、高いレベルでの研究・教育交流を実施している。

平成 23 年度「キャンパス・アジア」パイロットプログラム採択時のパートナー校である。双方向学生交流協定を締結しており、半期または 1 年の留学生の交換を継続して行っている。夏期語学セミナーが授業の一環として本学教員の引率のもと毎年行われている。また、本学では「成均館大学校交流プログラム」を提供しており、韓国・成均館大学校の学生たちに、外国語教育センターが受け入れ先となって、約 3 週間にわたる日本語研修と日本文化体験を提供している。来日する学生たちに対しては、日本語の授業と、日本文化関連の授業を用意し、また岡大生との交流、文化行事への参加、研修旅行も行い、参加者と成均館大学からは高い評価を受けている。「キャンパス・アジア」パイロットプログラムでは、夏から秋にかけて本学教員が学生を率いてワークショップを行う日中韓ワークショップの相手校でもある。

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた相手大学との準備 (大学ごとの役割・実施体制の明確化など) が十分なされているか。

すでに記述したように、韓国 成均館大学校とは長期にわたる交流があり、キャンパス・アジアパイロットプログラムでのパートナー校である。

成均館大学校とはキャンパス・アジアプログラム継続・発展の方向ですでに一致しており、パイロットプログラムは平成 28 年 3 月末で終了したが、平成 28 年度の学生交流はすでに継続して派遣・受入が行われている。現在では日本文化・日本研究が主体になっている交流を一層拡大する方向を目指すことで一致している (交流対象領域の拡大)。教育の分野に関しては、共通善研究で築いた信頼関係と協働関係を元に、学生の交流や教職員の交流を一層増加させる施策、具体的には、授業レベルの検討、共通授業のレベルや分野の拡大 (基礎教育の共有、専門科目での交流の拡大)、客観的な成績評価基準の共有と質保証に基づく単位互換手続きの簡素化 (単位の実質化と教務の効率化) へ向けた綿密な調整を行う予定である。

アジアクラットの育成については、履修科目の英語化を推進する一方で、地域言語も重視するマルチリンガル教育を進め、法学系では各国事情に通曉し東アジア全般を視野にいたれた外交政策、公共政策、産業政策展開のための実務法務の実践的教育を行うための各国法制カリキュラム、経済系、特にマーケティング、マネージメント、統計、を含む実務型教育、社会科学系では、共通善研究の発展形としての伝統的思想の再評価研究を行う。とりわけ成均館大学校ではパイロットプログラムの成果を受け、東アジア古典学を中心に、「東アジア的文化共同性模索」、「共生と協力の東アジア」研究構想、古典学連携専攻設置構想を明らかにしており、一層深化した研究・教育連携が期待できる。また、相互の文化的影響研究を中心とした社会学的調査技法等の実践型教育、医歯薬系では専門教育からプレマスターレベルの教育を岡山大学および吉林大学と共にコンソーシアム全体として展開する。医歯薬系も参加し、重要な大学院交流の一つである 0-NECUS プログラム (本学では社会文化科学研究科、教育学研究科、医歯薬学総合研究科) は中国東北部 5 校との交流だが、この事業との連携を積極的に行い、将来の国際連合大学院の設立を目指す。

本事業の実施計画 【①は1ページ以内、②、③は合わせて2ページ以内】

事業全体の「①年度別実施計画」、「②補助期間終了後の事業展開」及び「③補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画」について、具体的に分かりやすく記入してください。

① 年度別実施計画**【平成28年度（申請時の準備状況も記載）】**

すでにキャンパス・アジアパイロット事業終了後も継続し、より発展したプログラムとすることで3校は一致している。4月に吉林大学、成均館大学校と申請プログラムの検討・協議を行い、両校の了解を得ている。平成28年度は従来と同様の学生交流を中心とし、短期派遣・受入プログラムの実施、語学研修の実施、日中韓ワークショップの開催、3校合同会議の開催を予定している。とりわけ3校合同会議では単位互換にかかわる質保証、制度整備、教務理解、授業設定、教職員交流制度のすり合わせ等、今後のアジアクラット養成に関わる学生交流を円滑に進めるための基盤作りを集中的に行い、年度末までに制度を固める。運用後は本コンソーシアム以外の大学にも参加を呼びかけられるレベルの制度としたい。なお、制度合意に関しては外部調整機関の支援を仰ぐことも考えている。

【平成29年度】

アジアクラット養成プログラムI期を開始し、マルチリンガル教育と対象分野の拡大を進め、養成しようとするグローバル人材像およびモビリティの平成29年度目標の達成を目指す（母国語＋英語＋地域言語（日中韓のうちの母国語以外のいずれかの言語）を運用できるマルチリンガル人材の育成。英語に関してはCEFR B2レベルの運用能力。または、専門分野によっては、地域言語の運用能力がB2レベルにある。日中韓のうち、母国以外の国の文化、習慣、慣例、行動様式、古典・現代思想、文化交流・受容、法制度の違いや特徴に関する知識・理解がある。リーダーシップを発揮し、新たな課題を発見し、課題解決のための企画立案を行い、実行する能力がある）。

効果測定、実施評価、レビュー3校合同会議、総括を経てアジアクラット養成プログラムI期終了

【平成30年度】

アジアクラット養成プログラムII期開始

目標とするグローバル人材像養成および平成32年度目標へ向けてプログラムの実施を継続すると共に、モビリティの平成30年度目標値の達成を目指す。とりわけ就職優位性とキャリア形成に焦点を当て、学部レベルの日中韓での就職活動において、優位性を得られるレベルの語学力と専門力の養成に力を入れる。他コンソーシアムとの連携を計り、3カ国間における、欧州のエラスムス計画に匹敵する「東アジア高等教育圏」の形成をめざし、学生モビリティ制度の定着を協議する。効果測定、実施評価、レビュー3校合同会議、総括を経てアジアクラット養成プログラムII期終了

【平成31年度】

アジアクラット養成プログラムIII期開始

目標とするグローバル人材像養成および平成32年度目標へ向けてプログラムの実施を継続すると共に、モビリティの平成31年度目標値の達成を目指す。とりわけ就職力向上とキャリア形成に焦点を当て、学部レベルの日中韓での就職活動において、優位性を得られるレベルの語学力と専門力の養成に力を入れる。大学院への進学を念頭に置いたプレマスターレベルの教育を開始する。他コンソーシアムとの連携を計り、3カ国間における、欧州のエラスムス計画に匹敵する「東アジア高等教育圏」の形成をめざし、学生モビリティ制度の定着を協議する。

効果測定、実施評価、レビュー3校合同会議、総括を経てアジアクラット養成プログラムIII期終了

【平成32年度】

アジアクラット養成プログラムIV期開始

アジアクラット養成プログラムを経た学生が国際連携大学院、またはコンソーシアムに属する3校の大学院に進学するための制度基盤を整える。東アジア圏での主導的中核人材にふさわしいキャリア形成が行われるように、企業や国際機関でのインターンシップを推進する。コンソーシアムは3カ国3校で完結するものではなく、他のキャンパス・アジアのコンソーシアムとの連携を深める。アジアクラット養成プログラム修了生は所属大学院の協定を用いて欧米の大学院へと進学できるように協議を開始。効果測定、実施評価、レビュー3校合同会議、総括を経てアジアクラット養成プログラムIV期終了。キャンパス・アジアプログラムの総括、3校合同会議、国際シンポジウム、報告書作成等を経て終了。以降へ継続。

② 補助期間終了後の事業展開

キャンパス・アジア事業の終了時点で、3カ国間には欧州のエラスムス計画に匹敵する一定の学生モビリティ制度が生まれ、東アジア高等教育圏が形成されていると予測している。その制度は以下の様な特徴を持つ：①質保証、レベル保証を基盤に各国で獲得した単位が3カ国間でスムーズに認められる単位互換の仕組みを持つ、②3カ国にまたがり、海外での勉強が必修として組み込まれた共通人材育成計画が複数存在する、③博士前期課程（修士課程）、博士後期課程（博士課程）でのダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリーが実質的な稼働を開始している、④教職員の国際化対応が完了していることにより、国際業務は通常業務の範囲を大きく越えない枠に収まるようになる。

上記の状況を受けて、アジアクラット養成プログラムは、AUN、ASEAN+3、エラスムスとの連結を図り、広義の次世代型中核的人材育成プログラムへと発展し、以下の方向に展開される。

1. 国際人材、地域人材の供給を担うと共に、アジアクラット養成プログラム修了者や国際・地域開発系の現職者に対し、より高度なキャリア形成のための学び直しの場を提供する。
2. 英語の世界言語化がさらに進行した中であって、アジアクラット養成プログラムのマルチリンガル教育の成果を活かし、地域言語が大きな意味を持つ学問である、文化・文学・言語・思想など人文系、各国社会の経済・法律・社会などの社会科学系、地域の伝統教育などの教育系において、高度な教育・研究の拠点形成のためのプログラムを立ち上げる。
3. アジアンクラット養成プログラムの成果を活かし、地域、まちづくり、都市計画、行政・経済・教育・社会・医療等の政策立案に大学がシンクタンクとして加わるシステムを構築する。
4. 国際連携大学院構想を推し進め、国策に関わるレベルの指導者の輩出を目指す。
5. 国際連携大学院の欧米大学院との接続・連携を通し、世界レベルの教育拠点を形成する。

③ 補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画

補助金の用途として大きな割合を占めるのは国際化に対応できる事務職員の確保（非常勤、契約職員等）、教育人材の確保（非常勤、契約職員等）および学生に対する支援（旅費、宿舍補助など）である。

このうち、国際化に対応できる事務職員については、大学の国際化の過程で養成、配置が順次進行し、特別予算等を管理する事務職員を除けば、5年後には特別な国際系人材の確保は不要になると見込んでいる。次に、教育人材の確保だが、英語で授業ができる教員の確保自体には問題はなくなると想定しているが、アジアンクラット養成や一層の国際連携プログラムを動かしてゆくためには、それぞれの学問分野で一定の評価を得る教育人材が不可欠である。したがって、教育人材の確保は必要だが、大学の国際化に伴い、優れた国際的教育人材の交流が進むことで、資金的には現在ほどの規模の費用は必要では無くなると考えている。また、現在国際交流資金も含む大学独自の基金創設も進められている。

最も大きな問題は学生に対する支援である。本学では現在、キャンパス・アジア学生支援を含む岡山大学国際交流基金制度があるが、留学生の増加に伴い資金が枯渇しつつある。現在、留学生の更なる増加を見込んで、新たなファンドの創設が進められている。また、奨学金のアワードとしての性格を強めることにより、支給対象者の数を減らし、質を高める工夫も検討されている。また、継続的に JASSO 奨学金を申請し、キャンパス・アジア学生の支援に有効に活用していきたい。

会議等に必要な旅費に関しては、直接顔を合わせて協議し、信頼関係を築くことも必要であるが、できるだけ WEB 会議などを利用して効率的な意思疎通を図っていきたい。

全体的には、制度構築や試験的プロジェクト立ち上げなどで試行錯誤する期間が終わり、キャンパス・アジア事業が通常業務のレベルに組み込まれてゆくことになるため、事業費自体は抑えることが可能と想定している。

補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

○ 資金計画が、経費や規模の面で合理的であるか。

(単位:千円)

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための用途に限定されます。(平成28年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。)

記載例:教材印刷費 ○○○千円
○○部×@○○○円
:謝金 ○○○千円
○○人×@○○○円

＜平成28年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考
[物品費]					
①設備備品費		900	200	1,100	
・事務機器		0	100	100	
・事務機器			100	100	
②消耗品費		900	100	1,000	
・事務用品		200	100	300	
・図書・教材		300		300	
・講義用消耗品費		400		400	
[人件費・謝金]					
①人件費		3,460	3,400	6,860	
・事務職員雇用経費 1人x@400千円×5月		2,860	3,000	5,860	
・非常勤事務職員雇用経費 1人x@130千円×5月		2,000		2,000	
・非常勤講師経費 30コマx@7千円		650		650	
・専任教員雇用経費 1人x@600千円×5月		210	3,000	3,210	
②謝金		600	400	1,000	
・TA・チューター謝金		500	400	900	
・事務補助謝金		100		100	
[旅費]					
①海外旅費		6,500	0	6,500	
・海外旅費:教職員の派遣 12名x@200千円		2,400		2,400	
・海外旅費:教職員の招聘 12名x@200千円		2,400		2,400	
・国内旅費 8名x@100千円		800		800	
・海外研修引率旅費 3名x@300千円		900		900	
[その他]					
①外注費		9,140	500	9,640	
・ホームページ管理		3,300	0	3,300	
・海外研修実施経費(フィールドワーク)		200		200	
・国内研修実施経費(フィールドワーク)		2,000		2,000	
・翻訳・通訳等		800		800	
・翻訳・通訳等		300		300	
②印刷製本費		1,000	100	1,100	
・会議等報告書		300		300	
・年度末報告書		200	100	300	
・事業広報パンフレット		500		500	
③会議費		600	200	800	
・コンソーシアム合同会議・ピアレビュー		400		400	
・その他の会議(国内、国外)		200	200	400	
④通信運搬費		200	0	200	
・郵送費その他		100		100	
・通信費		100		100	
⑤光熱水料		0	0	0	
⑥その他(諸経費)		4,040	200	4,240	
・長期受入学生宿舍費 10名x6ヶ月x@25千円		1,500		1,500	
・短期受入学生宿舍費 24名x1ヶ月x@60千円		1,440		1,440	
・長期派遣学生交通費 10名x@100千円		1,000		1,000	
・バス借り上げ		100		100	
・施設使用料			200	200	
平成28年度	合計	20,000	4,100	24,100	

(大学名: 岡山大学)(タイプ: A-①)

(前ページの続き)

＜平成29年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考
	[物品費]	400	50	450	
	①設備備品費	0	0	0	
	②消耗品費	400	50	450	
	・事務用品		20	20	
	・図書・教材		30	30	
	・講義用消耗品費	400		400	
	[人件費・謝金]	6,980	7,500	14,480	
	①人件費	6,570	7,200	13,770	
	・事務職員雇用経費 1人x@400千円×12月	4,800		4,800	
	・非常勤事務職員雇用経費 1人x@130千円×12月	1,560		1,560	
	・非常勤講師経費 30コマx@7千円	210		210	
	・専任教員雇用経費 1人x@600千円×12月		7,200	7,200	
	②謝金	410	300	710	
	・TA・チューター謝金	200	200	400	
	・事務補助謝金	210	100	310	
	[旅費]	3,700	400	4,100	
	・海外旅費：教職員の派遣 8名x@200千円	1,400	200	1,600	
	・海外旅費：教職員の招聘 8名x@200千円	1,400	200	1,600	
	・国内旅費 6名×50千円	300		300	
	・研修引率旅費 2名x@300千円	600		600	
	[その他]	8,920	770	9,690	
	①外注費	2,950	100	3,050	
	・ホームページ管理	50		50	
	・海外研修実施経費 (フィールドワーク)	2,000		2,000	
	・国内研修実施経費 (フィールドワーク)	800		800	
	・翻訳・通訳等	100	100	200	
	②印刷製本費	200	100	300	
	・会議等報告書	100	100	200	
	・年度末報告書	100		100	
	③会議費	100	400	500	
	・コンソーシアム合同会議・ピアレビュー	100	200	300	
	・その他の会議 (国内、国外)	0	200	200	
	④通信運搬費	30	70	100	
	・郵送費その他	30	20	50	
	・通信費		50	50	
	⑤光熱水料	0	0	0	
	⑥その他(諸経費)	5,640	100	5,740	
	・長期受入学生宿舍費 10名x12ヶ月x@25千円	3,000		3,000	
	・短期受入学生宿舍費 24名x1ヶ月x@60千円	1,440		1,440	
	・長期派遣学生交通費 10名x@100千円	1,000		1,000	
	・バス借り上げ	200		200	
	・施設使用料		100	100	
平成29年度	合計	20,000	8,720	28,720	

(大学名：岡山大学)(タイプ：A-①)

(前ページの続き)

＜平成30年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考
	[物品費]	300	150	450	
	①設備備品費	0	0	0	
	②消耗品費	300	150	450	
	・事務用品		20	20	
	・図書・教材		30	30	
	・講義用消耗品費	300	100	400	
	[人件費・謝金]	6,770	7,700	14,470	
	①人件費	6,570	7,200	13,770	
	・事務職員雇用経費 1人x@400千円×12月	4,800		4,800	
	・非常勤事務職員雇用経費 1人x@130千円×12月	1,560		1,560	
	・非常勤講師経費 30コマx@7千円	210		210	
	・専任教員雇用経費 1人x@600千円×12月		7,200	7,200	
	②謝金	200	500	700	
	・TA・チューター謝金	100	400	500	
	・事務補助謝金	100	100	200	
	[旅費]	3,250	950	4,200	
	・海外旅費：教職員の派遣 8名x@200千円	1,200	400	1,600	
	・海外旅費：教職員の招聘 8名x@200千円	1,200	400	1,600	
	・国内旅費 8名×50千円	250	150	400	
	・研修引率旅費 2名x@300千円	600		600	
	[その他]	7,680	1,410	9,090	
	①外注費	1,840	410	2,250	
	・ホームページ管理	40	10	50	
	・海外研修実施経費 (フィールドワーク)	1,000	200	1,200	
	・国内研修実施経費 (フィールドワーク)	800		800	
	・翻訳・通訳等		200	200	
	②印刷製本費	200	200	400	
	・会議等報告書	100	100	200	
	・年度末報告書	100	100	200	
	③会議費	200	400	600	
	・コンソーシアム合同会議・ピアレビュー	100	200	300	
	・その他の会議 (国内、国外)	100	200	300	
	④通信運搬費	0	100	100	
	・郵送費その他		50	50	
	・通信費		50	50	
	⑤光熱水料	0	0	0	
	⑥その他(諸経費)	5,440	300	5,740	
	・長期受入学生宿舍費 10名x12ヶ月x@25千円	3,000		3,000	
	・短期受入学生宿舍費 24名x1ヶ月x@60千円	1,440		1,440	
	・長期派遣学生交通費 10名x@100千円	1,000		1,000	
	・バス借り上げ		200	200	
	・施設使用料		100	100	
平成30年度	合計	18,000	10,210	28,210	

(大学名: 岡山大学)(タイプ: A-①)

(前ページの続き)

＜平成31年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考
	[物品費]	300	150	450	
	①設備備品費	0	0	0	
	②消耗品費	300	150	450	
	・事務用品		20	20	
	・図書・教材		30	30	
	・講義用消耗品費	300	100	400	
	[人件費・謝金]	5,110	9,360	14,470	
	①人件費	5,010	8,760	13,770	
	・事務職員雇用経費 1人x@400千円×12月	4,800		4,800	
	・非常勤事務職員雇用経費 1人x@130千円×12月		1,560	1,560	
	・非常勤講師経費 30コマx@7千円	210		210	
	・専任教員雇用経費 1人x@600千円×12月		7,200	7,200	
	②謝金	100	600	700	
	・TA・チューター謝金	100	400	500	
	・事務補助謝金		200	200	
	[旅費]	3,250	950	4,200	
	・海外旅費：教職員の派遣 8名x@200千円	1,200	400	1,600	
	・海外旅費：教職員の招聘 8名x@200千円	1,200	400	1,600	
	・国内旅費 8名×50千円	250	150	400	
	・研修引率旅費 2名x@300千円	600		600	
	[その他]	7,540	1,520	9,060	
	①外注費	1,500	750	2,250	
	・ホームページ管理		50	50	
	・海外研修実施経費 (フィールドワーク)	1,000	200	1,200	
	・国内研修実施経費 (フィールドワーク)	500	300	800	
	・翻訳・通訳等		200	200	
	②印刷製本費	200	200	400	
	・会議等報告書	100	100	200	
	・年度末報告書	100	100	200	
	③会議費	200	400	600	
	・コンソーシアム合同会議・ピアレビュー	100	200	300	
	・その他の会議 (国内、国外)	100	200	300	
	④通信運搬費	0	70	70	
	・郵送費その他		20	20	
	・通信費		50	50	
	⑤光熱水料	0	0	0	
	⑥その他(諸経費)	5,640	100	5,740	
	・長期受入学生宿舍費 10名x12ヶ月x@25千円	3,000		3,000	
	・短期受入学生宿舍費 24名x1ヶ月x@60千円	1,440		1,440	
	・長期派遣学生交通費 10名x@100千円	1,000		1,000	
	・バス借り上げ	200		200	
	・施設使用料		100	100	
平成31年度	合計	16,200	11,980	28,180	

(大学名: 岡山大学)(タイプ: A-①)

(前ページの続き)

＜平成32年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考
	[物品費]	300	150	450	
	①設備備品費	0	0	0	
	②消耗品費	300	150	450	
	・事務用品		20	20	
	・図書・教材		30	30	
	・講義用消耗品費	300	100	400	
	[人件費・謝金]	5,110	10,820	15,930	
	①人件費	5,010	8,760	13,770	
	・事務職員雇用経費 1人x@400千円×12月	4,800		4,800	
	・非常勤事務職員雇用経費 1人x@130千円×12月		1,560	1,560	
	・非常勤講師経費 30コマx@7千円	210		210	
	・専任教員雇用経費 1人x@600千円×12月		7,200	7,200	
	②謝金	100	2,060	2,160	
	・TA・チューター謝金	100	400	500	
	・事務補助謝金		1,660	1,660	
	[旅費]	2,000	2,200	4,200	
	・海外旅費:教職員の派遣 8名x@200千円	800	800	1,600	
	・海外旅費:教職員の招聘 8名x@200千円	600	1,000	1,600	
	・国内旅費 8名×50千円	300	100	400	
	・研修引率旅費 2名x@300千円	300	300	600	
	[その他]	7,170	1,990	9,160	
	①外注費	1,230	1,020	2,250	
	・ホームページ管理	30	20	50	
	・海外研修実施経費 (フィールドワーク)	800	400	1,200	
	・国内研修実施経費 (フィールドワーク)	400	400	800	
	・翻訳・通訳等		200	200	
	②印刷製本費	200	300	500	
	・会議等報告書		200	200	
	・年度末報告書	200	100	300	
	③会議費	200	400	600	
	・コンソーシアム合同会議・ピアレビュー	100	200	300	
	・その他の会議 (国内、国外)	100	200	300	
	④通信運搬費	0	70	70	
	・郵送費その他		20	20	
	・通信費		50	50	
	⑤光熱水料	0	0	0	
	⑥その他(諸経費)	5,540	200	5,740	
	・長期受入学生宿舍費 10名x12ヶ月x@25千円	3,000		3,000	
	・短期受入学生宿舍費 24名x1ヶ月x@60千円	1,440		1,440	
	・長期派遣学生交通費 10名x@100千円	1,000		1,000	
	・バス借り上げ	100	100	200	
	・施設使用料		100	100	
平成32年度	合計	14,580	15,160	29,740	

(大学名: 岡山大学)(タイプ: A-①)

交流プログラムを実施する相手大学の概要【相手大学数に応じたページ数(枠内に記入)】

大 学 名 称	Jilin University 吉林大学		国 名	中国
設 置 形 態	国立	設 置 年	1946	
設 置 者 (学 長 等)	中華人民共和国教育部 (現任学長は李元元)			
学 部 等 の 構 成	人文学部、社会科学学部、理学部、工学部、情報科学学部、地球科学学部、白求恩医学部、農学部			
学 生 数	総 数	69,828人	学部生数	43,887人
			大学院生数	24,391人
受け入れている留学生数	1,550人	日本からの留学生数	85人	
海外への派遣学生数	1,412人	日本への派遣学生数	50人	
Webサイト(URL)	http://www.jlu.edu.cn/			

大 学 名 称	Sungkyunkwan University 成均館大学校		国 名	韓国
設 置 形 態	私立	設 置 年	1946	
設 置 者 (学 長 等)	金昌淑 (現任総長は鄭圭相)			
学 部 等 の 構 成	文科大学、法科大学、社会科学部、経済学部、経営学部、生活科学部、師範大学、芸術学部、自然科学部、情報通信工学部、工科大学、薬学部、生命工学部、スポーツ科学部、医科大学、学部大学、儒学・東洋学部			
学 生 数	総 数	26,659人	学部生数	19,224人
			大学院生数	7,435人
受け入れている留学生数	2,593人	日本からの留学生数	41人	
海外への派遣学生数	292人	日本への派遣学生数	12人	
Webサイト(URL)	http://www.skku.edu/index_pc.jsp			

参考データ【国内の大学1校につき、①～③は枠内に記入、④及び⑤はそれぞれ2ページ以内】
 ※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づいて記入してください。

大学名	岡山大学
-----	------

①大学全体における出身国別の留学生の受入総数(平成27年5月1日現在)
 及び各出身国(地域)別の平成27年度の留学生受入人数

※ここでの「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限ります。
 ※平成27年度の留学生受入人数は、平成27年4月1日～平成28年3月31日の出身国(地域)別受入人数を記入してください。
 ※ここでの「全学生数」とは、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学全体の平成27年5月1日現在の在籍者数を記入してください。

順位	出身国(地域)	受入総数	平成27年度 受入人数
1	中国	286	419
2	韓国	41	52
3	ベトナム	36	42
4	マレーシア	27	29
5	インドネシア	18	27
6	ミャンマー	13	25
7	バングラデシュ	12	16
8	ドイツ	9	16
9	アメリカ合衆国	8	24
10	フランス	7	14
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) <small>インドネシア、トルコ、ケニア、タイ、スリランカ、スバハ、台湾、エチオピア、モルディブ</small>	63	109
留学生の受入人数の合計		520	773
全学生数		13478	
留学生比率		3.9%	

②平成27年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、平成27年度中(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)に海外の大学等(海外に所在する日本の大学等の分校は除く。)に留学した日本人学生について記入してください。
 なお、平成27年3月31日以前から継続して留学している者は含みません。

順位	派遣先大学の所在国 (地域)	派遣先大学名	平成27年度 派遣人数
1	タイ	カセサート大学	7
2	アメリカ合衆国	アリゾナ州立大学	6
3	アメリカ合衆国	カルフォルニア州立大学モンテレイベイ校	5
4	韓国	成均館大学校	4
5	フランス	ボルドーモンテーニュ大学	4
6	オーストラリア	サウスオーストラリア大学	4
7	ドイツ	ルール大学ボーフム	3
8	スペイン	ルシア大学	2
9	カナダ	ビショップス大学	2
10	英国	エディンバラ大学	2
その他 (上記10校以外)	(主な国名) 中国、デンマーク、インド	(主な大学名) <small>シェフィールド大学、ニューヨーク大学他</small>	33
計 3 カ国		計 24 校	
派遣先大学合計校数		34	
派遣人数の合計			72

大学等名	岡山大学						
③大学全体における外国人教員数(兼務者を含む)(平成27年5月1日現在)							
※「全教員数」には大学に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入してください。							
※「うち専任教員(本務者)数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数をそれぞれ記入してください。(いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めてください。)							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
1525	17	15	16	20	0	68	4.5%
うち専任教員 (本務者)数	17	15	4	20	0	56	

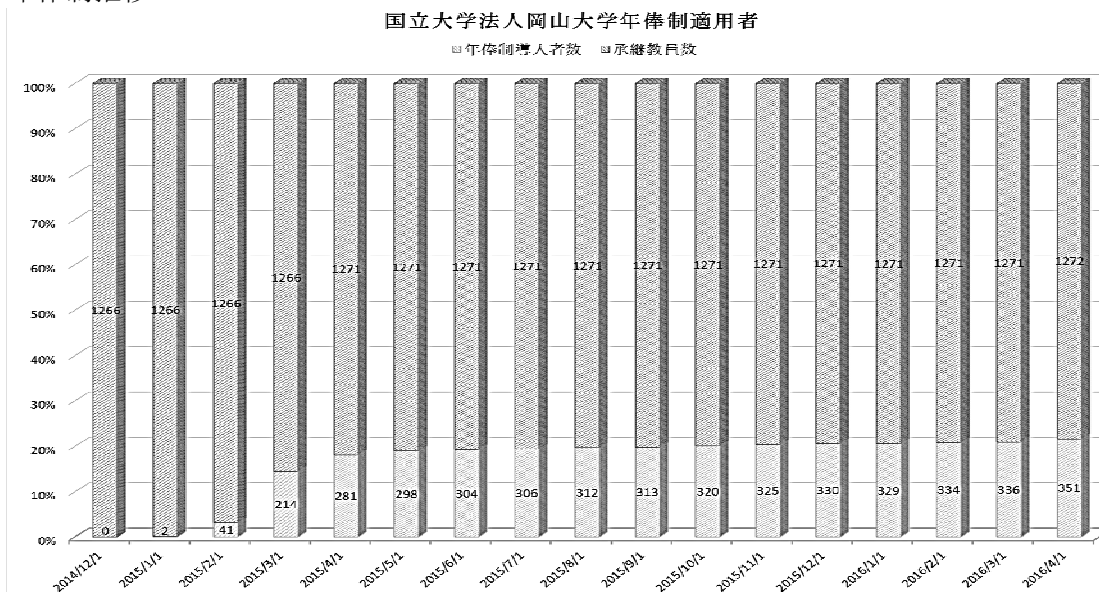
大学等名	岡山大学									
④「様式6①取組の実績」で記入した実績を示すデータや資料等を取りまとめ、出典を付して記入又は貼付してください。【2ページ以内】										
○英語による授業の実施										
年度	英語による 授業科目数(A)	うち学部	うち大学院	全授業科目数 (B)	うち学部	うち大学院	割合 (A/B)			
平成25年度(通年)	186	35	151	8,057	4,469	3,588	2.3			
平成26年度(通年)	220	35	185	7,810	4,514	3,296	2.8			
出典：学務部学務・企画課資料										
○L-Café(エル・カフェ)利用者数										
年度	平成26年度			平成27年度						
	前期	後期		前期	後期					
年間延べ利用者数	9,422人	10,711人		9,885人	9,836人					
出典：L-Café資料										
○O-NECUS定員										
部局名	双方向学位制度			短期留学制度						
社会文化科学研究科	4名			10名						
教育学研究科	3名			5名						
医歯薬学総合研究科	-			8名						
出典：グローバル・パートナーズ資料										
○O-NECUS双方向学位制度(ダブルディグリー)(受入学生数)										
年度		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
部局名	協定大学名	受入	受入	受入	受入	受入	受入 志願者	受入 志願者	受入 志願者	
社会文化科学研究科	吉林大学	2	1			2	1	0	1	
	東北師範大学	1	1	1	4	2	2	4	7	
	東北大学	-	-	-	-	-	-	-	-	
教育学研究科	東北師範大学	1	2	2	2	2	2	0	1	
	計	4	4	3	6	6	4	5	7	
出典：グローバル・パートナーズ資料										
○O-NECUS短期留学制度(受入学生数)										
年度		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
部局名	協定大学名	受入	受入	受入	受入	受入	受入 志願者	受入 志願者	受入 志願者	
社会文化科学研究科	吉林大学	2	5	3	4	5	4	4	0	
	東北師範大学		1	3	6	4	4	4	9	
	長春理工大学	-	-	-	-	-	-	-	-	
	東北大学	-	-	-	-	-	-	-	-	
教育学研究科	東北師範大学	1	2	3	4	4	4	5	4	
自然科学研究科	東北師範大学	-	-	-	-	-	-	-	-	
	長春理工大学	-	-	-	-	-	-	-	-	
医歯薬学総合研究科	吉林大学	2	1	2		1		0	0	
	中国医科大学	3		1	1	1		3	1	
	大連医科大学	5	4	3	5	3	5	5	9	
	ハルビン医科大学	3	1		2	3	1	1	0	
計		16	14	15	22	21	18	22	23	
出典：グローバル・パートナーズ資料										

大学等名

岡山大学

④「様式6①取組の実績」で記入した実績を示すデータや資料等を取りまとめ、出典を付して記入又は貼付してください。【2ページ以内】

○年俸制推移



出典：総務・企画部人事課資料

○職員英語研修の実施状況

研修プログラム名	対象者	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
TOEIC IP テスト	事務職員	66	72	51		
TOEIC IP テスト	事務職員 教育職員				117	103
英会話研修	事務職員	19	31		37	30
英会話研修（中級）	事務職員			22		41
英語スキルアップ研修 （ライティング編）	事務職員	16		18	27	30
英語スキルアップ研修 （プレゼンテーション編）	事務職員	6				
海外語学研修	事務職員			1	3	2

出典：グローバル・パートナーズ資料

○60分授業・4学期制

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
8:40～9:40	9:50～10:50	11:00～12:00	12:50～13:50	14:00～15:00
第6時限	第7時限	第8時限		
15:10～16:10	16:20～17:20	17:30～18:30		
第1学期	4月1日～6月2日	第3学期	10月1日～12月1日	
第2学期	6月3日～7月31日	第4学期	12月2日～2月14日	

出典：学務部学務企画課資料

大学名	岡山大学
⑤他の公的資金との重複状況【2ページ以内】	
<p>※当該申請大学等において、今回申請している内容以外に、文部科学省が行っている大学改革推進等補助金、国際化拠点整備事業費補助金、研究拠点形成費等補助金等又は独立行政法人日本学術振興会が行っている国際交流事業の補助金等による経費措置を受けている取組がある場合、また、現在申請を予定している取組(大学教育再生加速プログラム等)がある場合は、それらの事業名称及び取組内容について、1事業につき3～4行程度を目安に記入してください。その中で、今回の申請内容と類似しているものがある場合には、その相違点についても言及してください。</p> <p>また、独立行政法人日本学生支援機構平成28年度海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)に採択されたプログラムがある場合には、本事業の申請内容との関連について必ず明記してください。</p>	
<p>○独立行政法人日本学生支援機構平成28年度海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)に採択されている。</p>	
<p>採択された海外留学支援制度は、大学の世界展開力強化事業－「キャンパス・アジア」(平成27年3月終了)を継続的に実施するため申請した、中韓への派遣と受入を実施する東アジアの将来を担う次世代人材養成を行う三カ国協働プログラムである。</p>	
<p>中国(吉林大学)、韓国(成均館大学校)でも受け入れ体制を整備しており、実質的には日中韓双方向プログラムの一部として機能する。日中韓の次世代を担う学生の相互理解、自国以外の国の文化、歴史、社会、経済等広い範囲における理解の深化、他国への深い理解に基づき、自国のさらなる認識の深化を目指すものである。特に、派遣学生は滞在中に3カ国の学生が集まって授業を受け、討論を行う日中韓ワークショップに参加する。講義以外に三ヶ国の学生交流、現地企業の視察も含め価値観の共有を目指す。帰国後は、岡山大学に留学中の中国・吉林大学、韓国・成均館大学校の学生たちと共に報告会を行い、価値観の共有を行うことで東アジア次世代育成を目指す。</p>	
<p>新たに申請している本申請との橋渡しを行なうプログラム(28年度海外留学支援制度)となっている。</p>	
<p>○大学改革推進等補助金スーパーグローバル大学創成支援(Top Global University Project)</p>	
<p>PRIME(PRACTICAL Interactive Mode for Education)プログラムにより、学生は3基幹力/3 powersを知識として持つだけでなく、3側面/3 facesの経験によりグローバルな現場で試す機会を持つことができ、現場に必要な、会話力、創造力、行動力、統率力、決断力を涵養し、実践の現場で適切な判断をくだすことができる能力(グローバル実践知)を身に付ける。</p>	
<p>○国立大学改革強化推進補助金</p>	
<p>社会に対応できるグローバル人材育成や学術研究など、社会からの大学への強化要請に対応するため、国立六大学国際連携機構においてアライアンス間交流及び日本・ミャンマー産学人材育成コンソーシアム構想の推進に取り組み、新たな国際連携モデルを構築する。</p>	
<p>○大学教育再生加速プログラム(A P)【H26採択、支援期間H31まで】</p>	
<p>テーマⅢ(入試改革)。</p>	
<p>国内における国際バカロレア教育への理解を深めるとともにIB入試の拡大を図り、IB校増加計画(200校)に貢献することによってIB入試実施大学の拠点校として役割を果たす。また、IB入試の拡大は、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価しうる大学入学者選抜制度の改革に繋がる。</p>	